



都名所圖會

右白虎
再刺
四

ル 4
4598
4



門凡
4503
卷 4

都名所圖會卷之四目錄



右白虎

薄馬場	野々宮	僧六遍昭古跡	大澤池	清涼寺	愛宕山四龍圖	時雨亭	三宝寺	清瀧川	朝日峰	寺
龜山	常寂寺	通昭寺山	名古曾瀧	嵯峨帝塔	長明神	厭離菴	小倉山	嵯峨化野	白雲寺	時雨桜
天龍寺	芥川	千代古道	相澤池	融大塔	西行古跡	定家古跡	二尊院	念佛寺	搔原	高野瀧
嵐山	歌詠橋	麻の聲	廣澤池	大覺寺	車僧塚	為家墳	金剛院	往生院	史仗權現	日暮瀧

皇禮 大學 圖書館
35.1.28
藏書

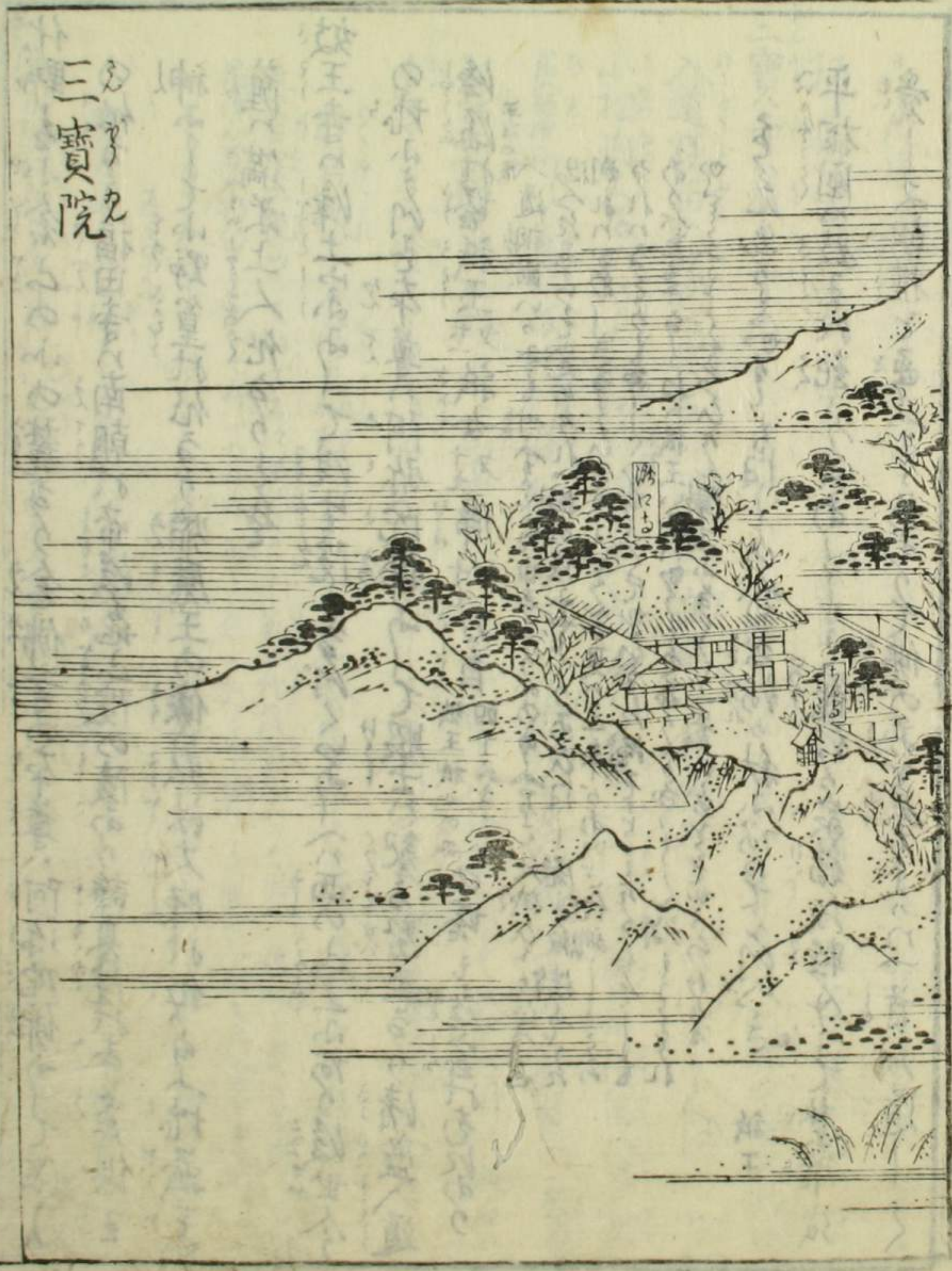
大悲閣
 小督塚
 大井川
 法輪寺
 西行樓
 安堵橋
 梅津川
 本橋社
 惟子辻
 梅の宮
 草うりの家
 葉室西芳寺
 地藏院
 月讀社
 上野橋
 久遠寺
 大原野春日
 西行樓
 栢社
 後月橋
 修川寺
 常盤社
 地藏堂
 西院春日社
 華嚴寺
 唐檀越
 桂川
 時鳥園
 隴清水
 翁の窟
 三鈷寺
 千鳥淵
 有栢川
 車折社
 右秦慶隆寺
 海生寺
 松尾社
 衣手社
 伴住寺
 桂の里
 峠地藏
 日野嶽
 長岡都
 兜嶽

善峯寺
 業平母公塔
 辨天社
 唐橋
 貞徳翁墳
 法傳寺
 琴彈橋
 羽束師森
 乙訓寺
 揚谷觀音堂
 歸海印寺
 觀音寺
 宗鑑古跡
 小塩山十福寺
 在原業平塔
 朱雀権現堂
 西寺古跡
 吉祥院天満宮
 地藏堂
 横大路牛車圖
 鷺尾寺
 向日明神
 粟生光明寺
 長岡天満宮
 山崎
 八丈天王
 関戸明神
 源為義塚
 山伏塚
 鳥羽里
 こい塚
 久世里
 福田寺
 真經寺
 真海印寺
 小倉明神
 離宮八幡宮
 妙喜菴
 谷觀音堂
 壱寬古跡
 水薬師
 松尾系礼忌
 實相寺
 下鳥羽塚寺
 藏王寺
 板井清水
 寺戸願徳寺
 寂照院
 因明寺
 宝寺
 天満宮社



愛宕山之や一海王城の乾あり朝日嶽白雲寺と號一此名居り
坂谷又十所ありてりめふ試の峠あり清瀨川後藤橋火燧燈現を
十七町目あり櫛原系川の麓あり南星峯とい乾れこの嶺を
の鐵の華表に頼る表を朝日山裏と白雲寺と書し共小竹表良怒
法親王の筆
除法より後のみ香解あり清瀨川北水の白波西行法師
岩根あり清瀨川の早々れ波押しくる岩れ山吹持中納言圓光
岩根は白波ありれもあつて山標あり色いろりり波取仲
本殿阿志子山権現あり系所ハ伊弉册尊也公位靈尊也本殿を
將軍地藏を並りて一帝都れ守護神として火災と水く退りて
之代を鷹が筆れりありと光仁天皇れ御宇天應元年に慶後
法師は山とてしとて勅修しぬ一從ふ天竺地日羅唐土の足界日本に在り
坊は三思衆魔の大將之文武帝は神皇正統記
元年後小角泰澄は西暦一四の悪鬼依退治せしとありの山谷に在る石屋を電七靈
と稱す愛宕山といふは黒雲嶽と絶て西聖人の山といふ小黒を愛とて白雲とる故に
白雲寺といふの山石を中は地藏龍樹布留那毘沙門天のく出で
訶字は尊像の甲冑衣帶一將軍の形を現しぬるり當社に建てる轉て
四四

て和氣清麿例祭を四月中廿亥日ありて神樂二基あり嵯峨清涼寺
鎮守は清涼所とて野々宮小振之神依依傳ふあり依依傳
六月廿四日
千日系りてを育り群集一月毎れ縁日小も老人の血竹樂歌ありて枝
られ婦人童子れつらちもさく万仞の峻れたといふ坂坂は茶店小休
ら白雲目のあを横ありて土差取けふ典として足れを依依とて枝
山嶽園二三不烈る高山ありて炎暑れれも峯寒し道ハ峻難なりとい
とも常に諸人おりく願きも只権現れ威徳ぞり
鎌倉山月輪寺ハ愛宕の山腹あり鐵の巻井くらをとりて
七十三町あり 當寺は本寺ハ十一
面觀世音安多祖師堂ハ空也上人親書聖人月輪殿下れ像あり
用基の慶後法師中興ハ九條園白老政大臣兼實公之此地ハ園居ハの故
月輪定と稱し
龍女水空也上人は此小池居ハのハ當時當山寒懸湯より龍如婦人化して
龍とて上人ハ妙經を授り念成仏を具報思くく後ハの巖に實し
りの清泉涌出りありは龍女といふ今ハ湯減るハ所ハ雨後堂のあり
知ふりて當山の用水を傳ふ少女のやハあり 時雨橋親書聖人
小園を遷の時實公名跡を神みりたりれを自他の像を遷し別とありては橋
より時雨を今も傳ふのまはるる人といハるこるん



三寶院

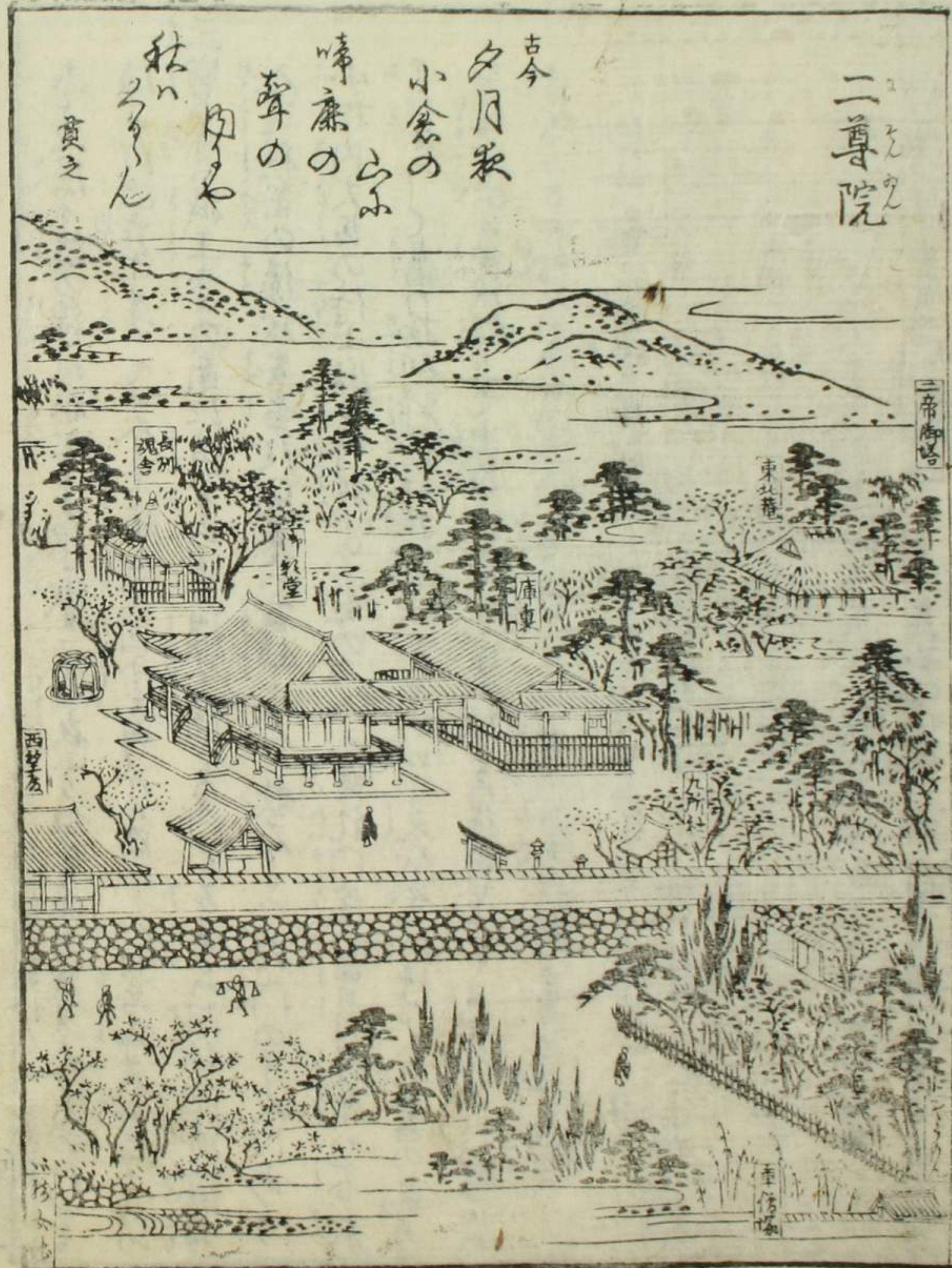
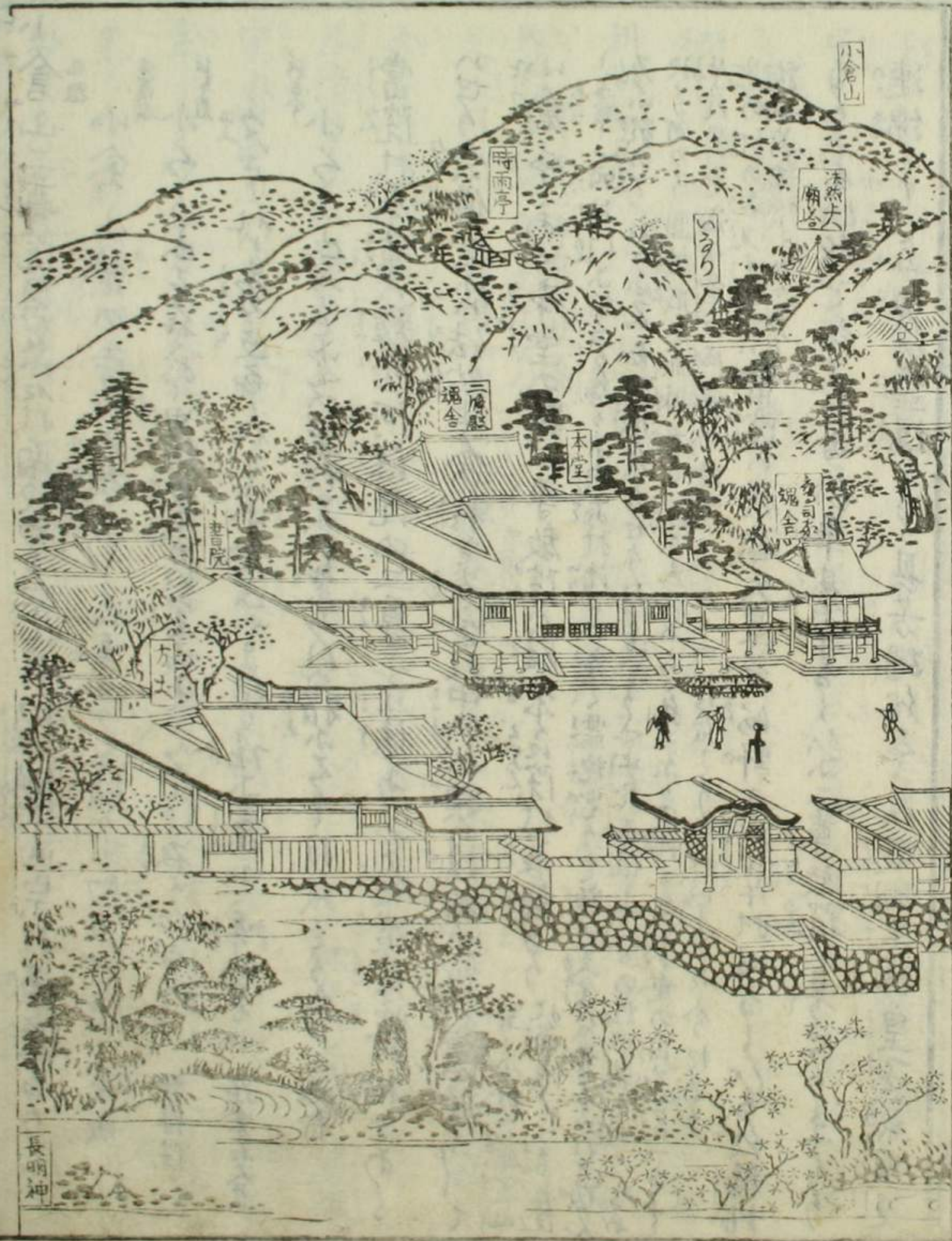


往生院

念佛寺
福田寺

平山

院惠諱



小倉山二尊院（風雅）の意は南にあり宗旨（天台眞言）律（浄土）四宗に兼あり

小倉山（後醍醐）の寺に相小ありぬるがはげりあり（後成）

小倉山（新嘉）の寺に相小ありぬるがはげりあり（順徳院）

小倉山（新嘉）の寺に相小ありぬるがはげりあり（後成）

小倉山（新嘉）の寺に相小ありぬるがはげりあり（順徳院）

小倉山（新嘉）の寺に相小ありぬるがはげりあり（後成）

小倉山（新嘉）の寺に相小ありぬるがはげりあり（順徳院）

小倉山（新嘉）の寺に相小ありぬるがはげりあり（後成）

小倉山（新嘉）の寺に相小ありぬるがはげりあり（順徳院）

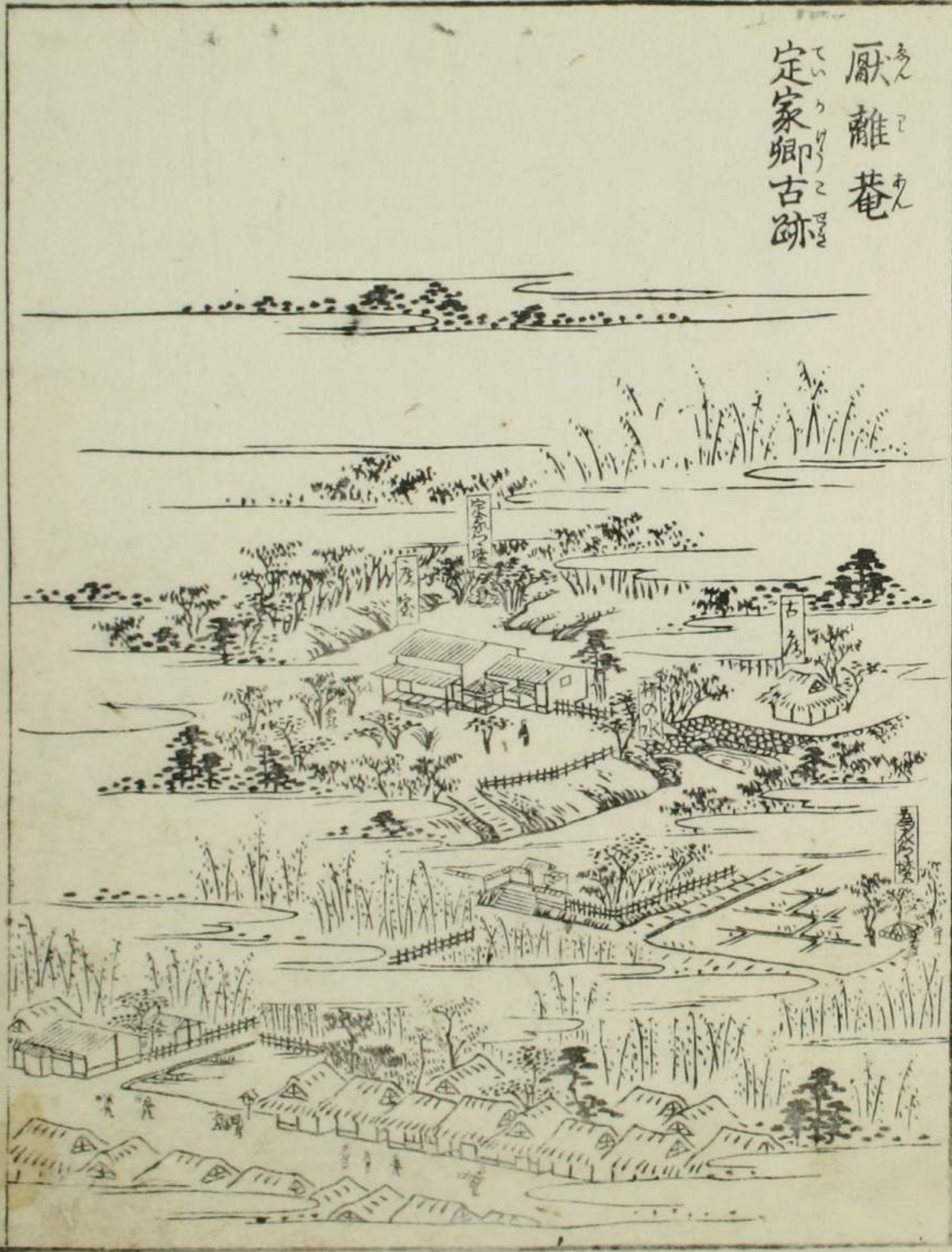
小倉山（新嘉）の寺に相小ありぬるがはげりあり（後成）

小倉山（新嘉）の寺に相小ありぬるがはげりあり（順徳院）

小倉山（新嘉）の寺に相小ありぬるがはげりあり（後成）

王いやくら山莊と宮雄藏殿と樹具後星霜ありて中興法然上人開
居しゆいえ久元年十一月七日一宗模範の式七條の記述又と制せられ自
と條て判形とくらる當院第二世信空上人とて西上人等百八十九人
記述にほざるあつく自學の念とせられり（慈谷二序直実も九十人目）又神變に舍
利と安重（法然上人の舎利）とて式を依りて曰佛子牟尼の遺教ありて淨土の一
思使するた報謝とてとせられり（いまこのとあるおれは是是私尊の）
足引れ淨影具傳小日月輪禪定殿下法然上人淨歸依の志はく尊敬乃
あまろ上人れ真形と写さんとゆらる上人のてく辭して退出せしは其後上人
百清せし浴室に入浴ありて衣と衣と念仏しゆ人休息の向西工法眼
宅磨さふありて簾中らる蜜小疑しゆ具形相取うのさせらる又六
坐しゆりて一方の足先出たり只あまろありてのほに盡せり上人のそ
系りの耐殿下し壽像のかけて開眼信誓とて室より上人變りたは足乃
ゆらり平懐の形ありて持念せししゆバ忽然として具足引れ坐

厭離菴
定家卿古跡



寺の姿姿とる足偏小上人の奇特又の繪師れ名譽ありて七人奇異
 のそい旅よりふる足より足引の津和を橋々々
 法然上人れ第二世正信房湛空を徳大寺大實徒公孫之菩提
 真後依形へ志深りたるを降土門入って當院と再興し土津門院後醍醐院
 二代の園師とあり寛喜上皇清帰依れ勅命ふはくを清遺骨と當院の所
 塔の納め奉り當院西の三世正覺上人も後深州院龜山院後宇多院伏見
 院の園師とあり當院の縁起の伏見宮貞敦親王西三條公條卿の兩帝之
 外題の後深長院の宸翰ありて画の土佐光信あり大聖文殊の三衣傳
 教大師の五條加賀衣慈覺大師の三衣皇慶阿闍梨の加賀衣あり
 は加賀衣の後法神現れく天竺無熱地ふ具外五銚等伏見院よりれ津和附
 初て證ひしといふ系系加賀衣あり
 として當院の付寶あり
 黄門定家卿の公社といふ旧地の佛殿のうしろれ公版ありの御より
 以て當院講堂魏々々より後世小倉ふふありて号するお花
 定家卿の公社
 次下に若ん

わさこ末の皿
竹雲とわらわ
糸をきてねお
とある

桃盛つと

中ふふあはく

おのりて

ふちふち

みらとせぬり

奔福



檀林寺といひむろ檀林皇后は草創之れと後継は浄堂と稱ん唐の義也

亡廢しては地は津金剛院と建つ今に二尊院に

津金剛院のいひ又茨海調りりといひて

長明神にや一海に二尊院大門のまゝる祠有り所は檀林皇后は髪を

とひ侍り又日堂宮は南二町むろふあり皇后の纏袴とあつたり

裏柳社大門のあがり中院あり上表に散り所ありとを檀林

皇后嘉智子の後継天を寵愛あり西施毛嬙も劣ぬ美人の

薨りぬ後戀慕愛執のこゝに散散させんとて遺命むろり後

磯野く系ふ於多具為都る所ふや一り後建とくあつたり

西行法師の房に於ては長のや一りれ有にあり

我ものく杖の楨にあふふ余は里ふ家捨せしより西行法師

車僧の塚に二尊院のまゝ敷の中一堆の所ありむろりあれ後捨る

京極門定家卿の山莊ありし時雨亭と號す舊跡とて傳くあり

かの卿の孫ありし又いふき園ありしとて後人其跡傳へしことあり

後拾遺 山莊ありしとて後人其跡傳へしことあり

けふを撞くて謡曲と作たり小倉山莊といふ清涼寺西乃門あり

二尊院寺の道二町をとりて氏家阿所と中院町といふ

院あり今後て半とせ入る細道あり竹林後北の門ありと東小向

所の名とせり

あけの厭離房といふ門の周小柳水といふ清泉あり草屋乃

約の西れ多れ所しとて

れ領ありて房室とありしり今も破壊して序をうけたりありて

禪僧ふとあり

小倉山志んれの所なりきものありし四丈あり

あまののくくの里小倉わしてかさをも袖に折ぬべたが

思ひれんわといふ小くくふの形は松と訓て久し

明月記 け書は英門ありしとて定家卿の始りて古今仙百人と名し

彼記の曰 文曆未年五月廿七日 朝天晴 自不知書事後織中院障子

色紙形故予可書由彼入道懇切雖極見苦事熱海手送之古来人歌

各二首自上天智天皇以来及家隆雅經卿

小倉山百人一首といふ定家卿の始りて古今仙百人と名し

の初めと一人一首の撰出の二説あり新古今撰集の秋英門の

撰とてさう又二説は唐の勝子京の岳陽樓詩賦とてさう

あふ合の作りしとてさう又二説は唐の勝子京の岳陽樓詩賦とてさう

與徳老人の村孝吟圓珠房契申すとてさう又二説は唐の勝子京の岳陽樓詩賦とてさう

後世の傳るる英門直筆は色紙の形者の名とてさう

倉山山莊にありしとてさう又二説は唐の勝子京の岳陽樓詩賦とてさう

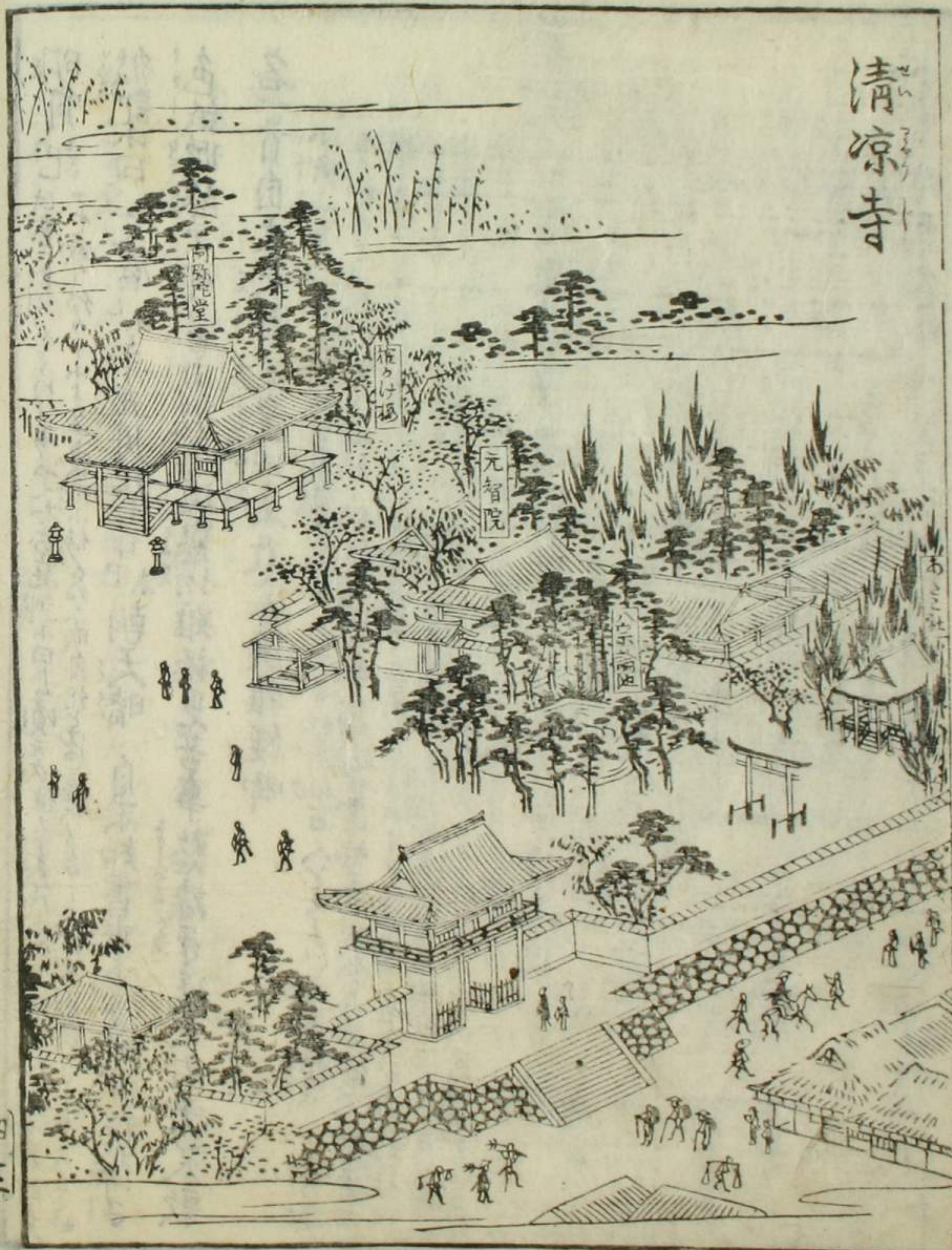
定家身よりて後三年の佛事との家ありしとてさう

りかゝりし竹林のさうりしとてさう又二説は唐の勝子京の岳陽樓詩賦とてさう

下登泉宗家卿よりさうりしとてさう又二説は唐の勝子京の岳陽樓詩賦とてさう

中院入道殿 建治元年四月廿九日薨とて記されし

定家卿為家卿所父子の同姓は地不決せり是等の證とてさう



五臺山清涼寺の舎に東あり

本尊の大聖釋迦牟尼佛の之像ありて長尺八寸五分天竺毘首羯磨天に似たり

脇士の十大弟子の之像共ふ厨子に安置し東西に壇上より文殊普賢菩薩に

栴檀尊容の二國無雙の靈佛ありて釋尊在世に似たり生身打坐像

形如來の淨母摩耶夫人釋尊成道生ましくて後七日に覺るの切利

天に生れり釋尊成道ありて祇園精舎なるの天竺より淨母に似たり

ゆゑ一夏九旬の間より此時四衆の軍釋尊成道なるの天竺より

結する優填王はのふ渴作ありたるを尊神とすなりて寶藏の香木亦

梅檀成なるを天竺毘首羯磨なるの目連尊者の神通成りて佛の香

相成りたるありて尊容速ふ成就して祇園精舎に安置せり釋尊安

居の淨法成りて本末歸する其の本像水精の淨階成りて生身打坐

速いなり釈尊本像不宣され涅槃遠きなり其の本像生身の衆生教化あり

へしと共におよそ祇園精舎小入り安置され本尊をさへまらる唐土に似たり

宋の代至る本朝一条院の淨宇永延元年南都東大寺に流徒法橋有
終後唐の靈告を蒙りて此尊像成感得たりなり帰帆しては年八月十八日

天聰小達一伽藍を建立し清涼寺と號す以上續記の

阿彌陀堂 棲霞寺と號す後儀帝の皇子融大長門殿の御宮ありて此像あり

來てこれと彫刻を造り終つて五大堂 宋の上直信ありて本尊の五大堂弘法大師

西の殊小寺に在り人酒と号す 動大威徳軍此利二重塔 本尊の多宝佛を二石塔

の之を安置せり 八宗論池 弘法大師の御下りて諸宗の 檀掛橋 此の像あり後儀天皇御所の

にありて 四ッ足門 西の門と云ふなり 本尊建立の時七日來訪する人あり阿彌

牛と云ふなり遊藝成りて佛果と得せりといふありてありてありてありてありてあり

にありて 牛の像ありて佛果と得せりといふありてありてありてありてありてあり

下りて 牛の像ありて佛果と得せりといふありてありてありてありてありてあり

昔寺の 什和ある 大念佛 毎月三月及び八月十五日念之 淨身拔 三月十九日奉養の石塔

浄身の 浄身の 浄身の 浄身の 浄身の 浄身の 浄身の 浄身の 浄身の 浄身の

浄身の 浄身の 浄身の 浄身の 浄身の 浄身の 浄身の 浄身の 浄身の 浄身の

浄身の 浄身の 浄身の 浄身の 浄身の 浄身の 浄身の 浄身の 浄身の 浄身の

浄身の 浄身の 浄身の 浄身の 浄身の 浄身の 浄身の 浄身の 浄身の 浄身の

浄身の 浄身の 浄身の 浄身の 浄身の 浄身の 浄身の 浄身の 浄身の 浄身の

浄身の 浄身の 浄身の 浄身の 浄身の 浄身の 浄身の 浄身の 浄身の 浄身の

廣澤池
遍照寺旧跡



音頭山

遍照寺山

座禪石
天長天松

海土金江

千代吉通

足取池
千代の井
さし石

後拾遺

ひろはの月夜

あそびあり

任人もさね

ふ里の

秋は

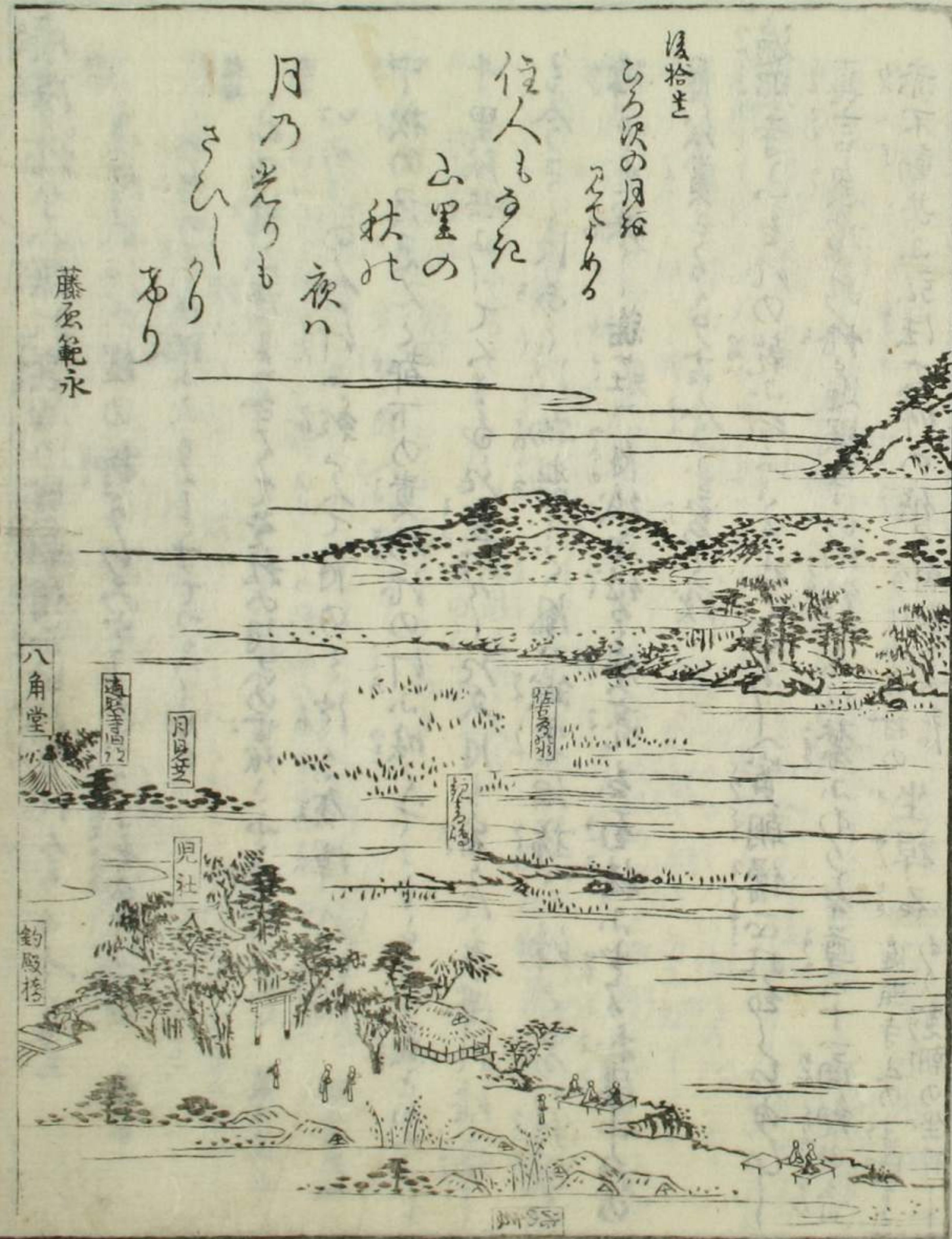
夜の

月乃光りも

さしあり

あり

藤名範永



八角堂

遍照寺

月夜

兜社

釣殿橋

廣澤池の大澤に異なり寛朝僧正は池をたけりゆへに

風雅

廣澤池の堰の柳うけみせりもゆくを云ふなり

後拾

この塔小徳まかるとを秋の月々の世にふりて

新十

いしへの人のけしきとて月のまはる廣澤乃池

中秋の月をんと都下の貴族池のけしきとて

千里を共みてくまを空にたふす月も宿る廣澤乃池

も今さらばあはれ物悲しく風い織雲は掃く降く

降く寒く謝荘の月夜とてを廣亮を南橋小徳

月夜賞まらるる古今小徳なり

遍照寺ふと池の乾ふ向ふらふのいしへ

真言息塔は池の遍照寺の旧跡にた禁ふわり

赤不動共弘法大師の依之

坐禪石

あり寛朝の坐禪

所へ登天松 寛朝の松の樹より夫小登りしとて

親音流 池の乾ふありつゝいへ遍照寺より

寛朝僧正の常小儀して仕へて寛朝僧正の後

寛朝僧正の常小儀して仕へて寛朝僧正の後

寛朝僧正の常小儀して仕へて寛朝僧正の後

寛朝僧正の常小儀して仕へて寛朝僧正の後

寛朝僧正の常小儀して仕へて寛朝僧正の後

寛朝僧正の常小儀して仕へて寛朝僧正の後

寛朝僧正の常小儀して仕へて寛朝僧正の後

寛朝僧正の常小儀して仕へて寛朝僧正の後

寛朝僧正の常小儀して仕へて寛朝僧正の後

寛朝僧正の常小儀して仕へて寛朝僧正の後

寛朝僧正の常小儀して仕へて寛朝僧正の後

寛朝僧正の常小儀して仕へて寛朝僧正の後

寛朝僧正の常小儀して仕へて寛朝僧正の後

寛朝僧正の常小儀して仕へて寛朝僧正の後

寛朝僧正の常小儀して仕へて寛朝僧正の後

寛朝僧正の常小儀して仕へて寛朝僧正の後

寛朝僧正の常小儀して仕へて寛朝僧正の後

寛朝僧正の常小儀して仕へて寛朝僧正の後

寛朝僧正の常小儀して仕へて寛朝僧正の後

寛朝僧正の常小儀して仕へて寛朝僧正の後

寛朝僧正の常小儀して仕へて寛朝僧正の後

源草里 清涼寺のむぐりも今八代といふ

土着つくり候とて其人の氏を源草といふ

帯より池 廣澤のむぐり之流のくわら

志のふか岩 的野 仙羽洞 野依

其所にあり

千代の古道 幸盤へ通へ細なる

千代の古道のむぐり之流のくわら

嵯峨野の大覺寺清涼寺にありて故小幡とて天龍寺法橋と此
 迎坂下嵯峨とるけく野の宮に其中途よりいみへたり因縁の地
 して故人も多くあたりて秀吟れお好むるに連る一源順もい
 地小幡にて系藤の賦を依り掃臺空く僧侶の室とありぬる故跡に
 一の文擲ふのせたりありの舊野ゆも田獵の地ありて嵯峨帝始
 て所將ありてあり文徳清和陽成の二帝におこりてせぬい
 一が光孝帝のさの興しあり所幸ありぬありいけ野へ友人
 を遣さむと松虫鈴虫をいぬるに具て野に虫をい
 遊りあむた虫を撰り奉りて嵯峨帝の二重の所結書あり
 之日本二帝の第一より又証文も達しありるる文書秀藤
 にいんてあり所佐心淳和帝に講しせぬいしてありる離宮あり
 かくれ嵐嶺の白櫻糸緒に落月小幡意を慰まるとありか乃
 世於人あけ野れ女廓花のうけたりた成も好むと馬より成て

よめる

古今序

名ふめくわわたりと女廓花我成あり余徳翁

僧正遍照

五律

のり人の草名衣なりもあはれ秋はる野四方の白鳥

順徳院

長久二年八月松尾社行幸侍々々長宮の女房車

小草の衣衣のさして勝縁神くさくさふまるとて物見

侍々々衣通湯のつらさあてはく小まのさ侍々々落の

車のささふらうらよせとらみゆる

後古

うらまのくわわたりと女廓花我成あり余徳翁

中納言資深

新十

後せの影後れさる末とてこの結の流阿まると

泰山院

日

うりりたるけ世のさるれ秋のさるも時毎も身もさるん

法平定馬

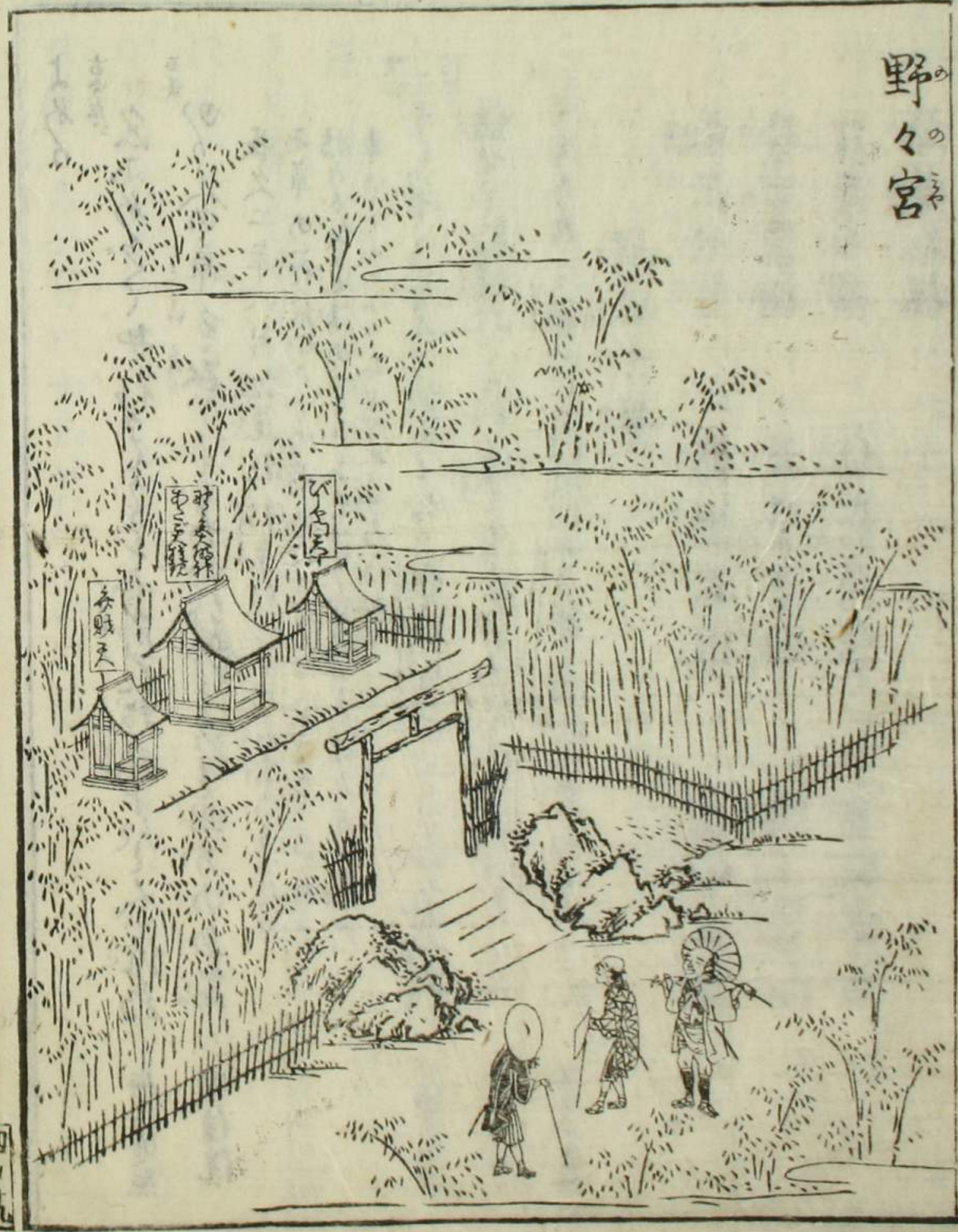
嵯峨十景

叡岳晴雪
 愛宕雲樹
 嵐嶺白櫻
 雄藏紅楓

難瀨飛瀑
 五臺晨鐘
 仙翁変浪

遍昭孤松
 幡山靈社
 龜緒落月

野々宮



野宮を小倉山の巽る枝の中にあり悠記主基の兩宮ありて神

城あり黒木の多井小芝瀧のいよへの遺風あり伊勢右神宮

無宮ふませの人の因親王は所小とせとせとるり後あひて援

あり秋文のそとめい垂仁天皇の御宇皇女倭姫命あり

例小のりて九月上旬吉日紙ト定して伊勢右神宮

向ひのりて後を野宮の御宇にいま後

松風の多に乱る秋の秘伝をけん子日のからよとそれ

秋の多に乱る秋の秘伝をけん子日のからよとそれ

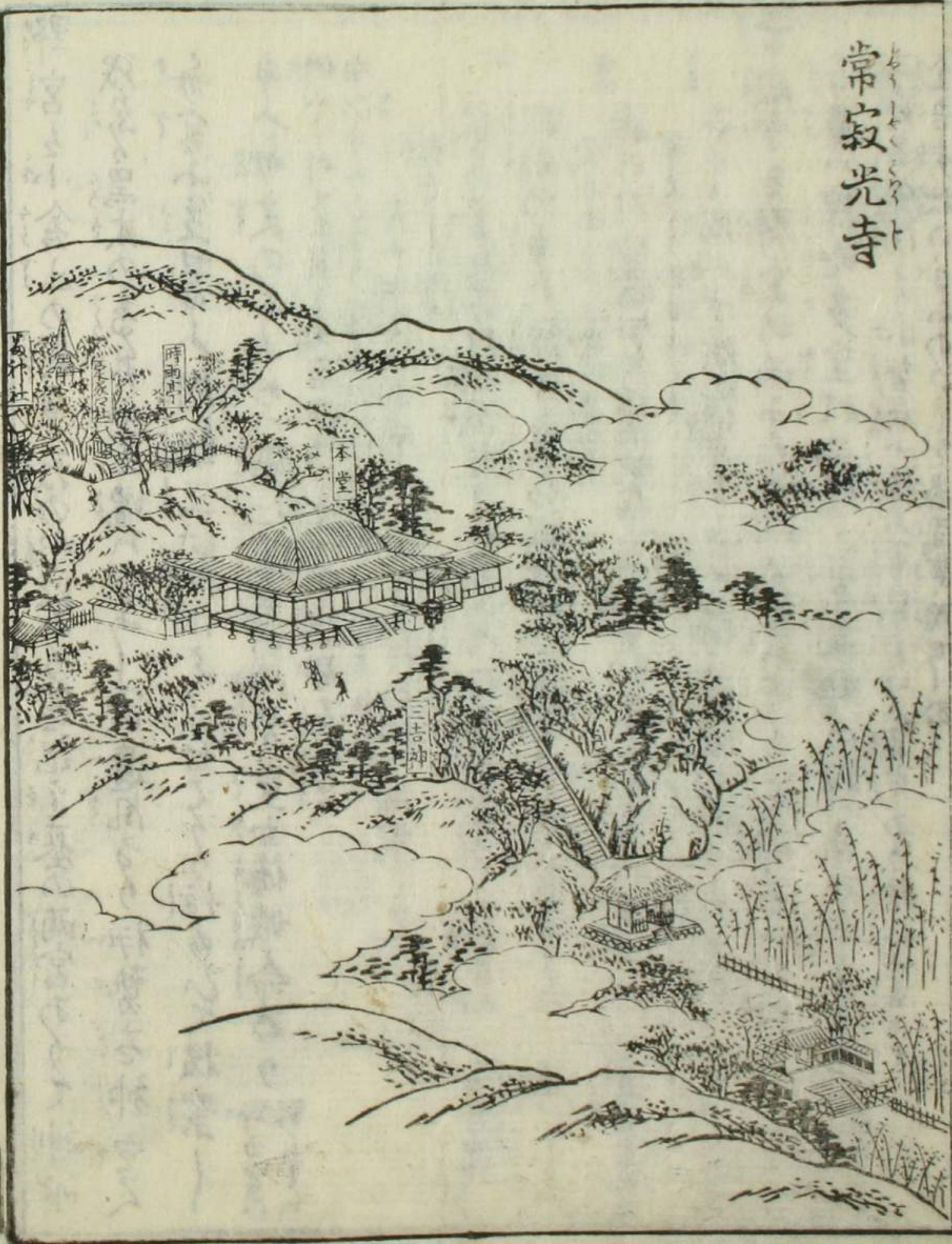
常寂寺を野宮の西ふありはたたふありて

本尊の釋迦多宝如来二佛之定家卿の社の南のふとふあり

ちり高倉院より小督局の婦人車琴といふ名琴あり後代ふありて

金吾秀秋のふありしを寺寄附せりあり

常寂光寺



芥川の野宮のまがを流れ末は大井河ふさる小川明りむり芥川

殿といふ所所あり龜山院御幸あり一所とせ

竹田の芥川

歌詠橋の天龍寺のま芥川の流れふかろ橋より西行法師

け所張通りたすひやせり奇事ふさる和あは猶答教首

わり後ふ西行むあふはまり一より號るとせ

薄馬場の天龍寺れ東麻王院のむらりあり

龜山の天龍寺の西るるとせ

離宮張いとるみほせあふ旧跡あり

龜山の仙洞あり山の様はあまごうのしう

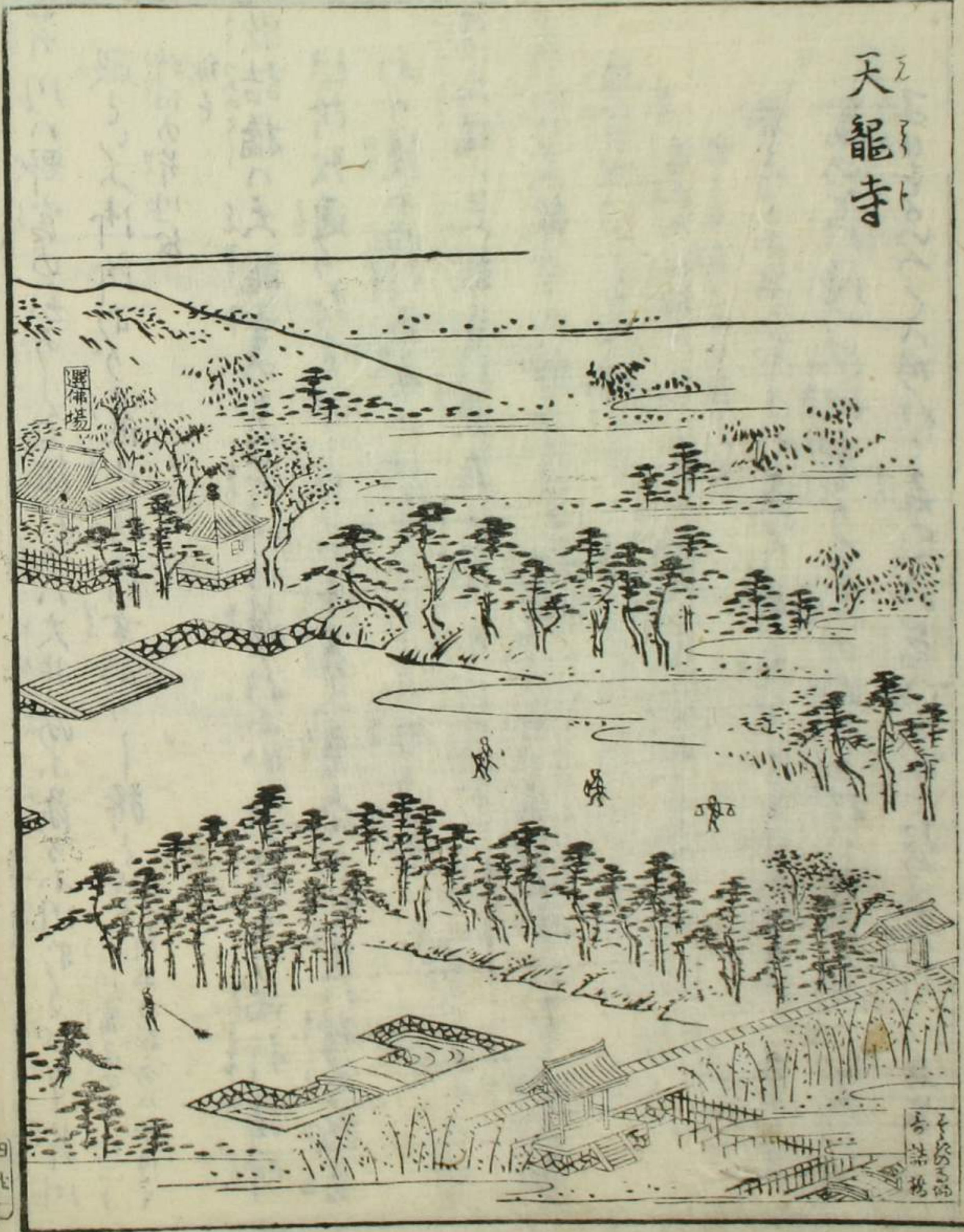
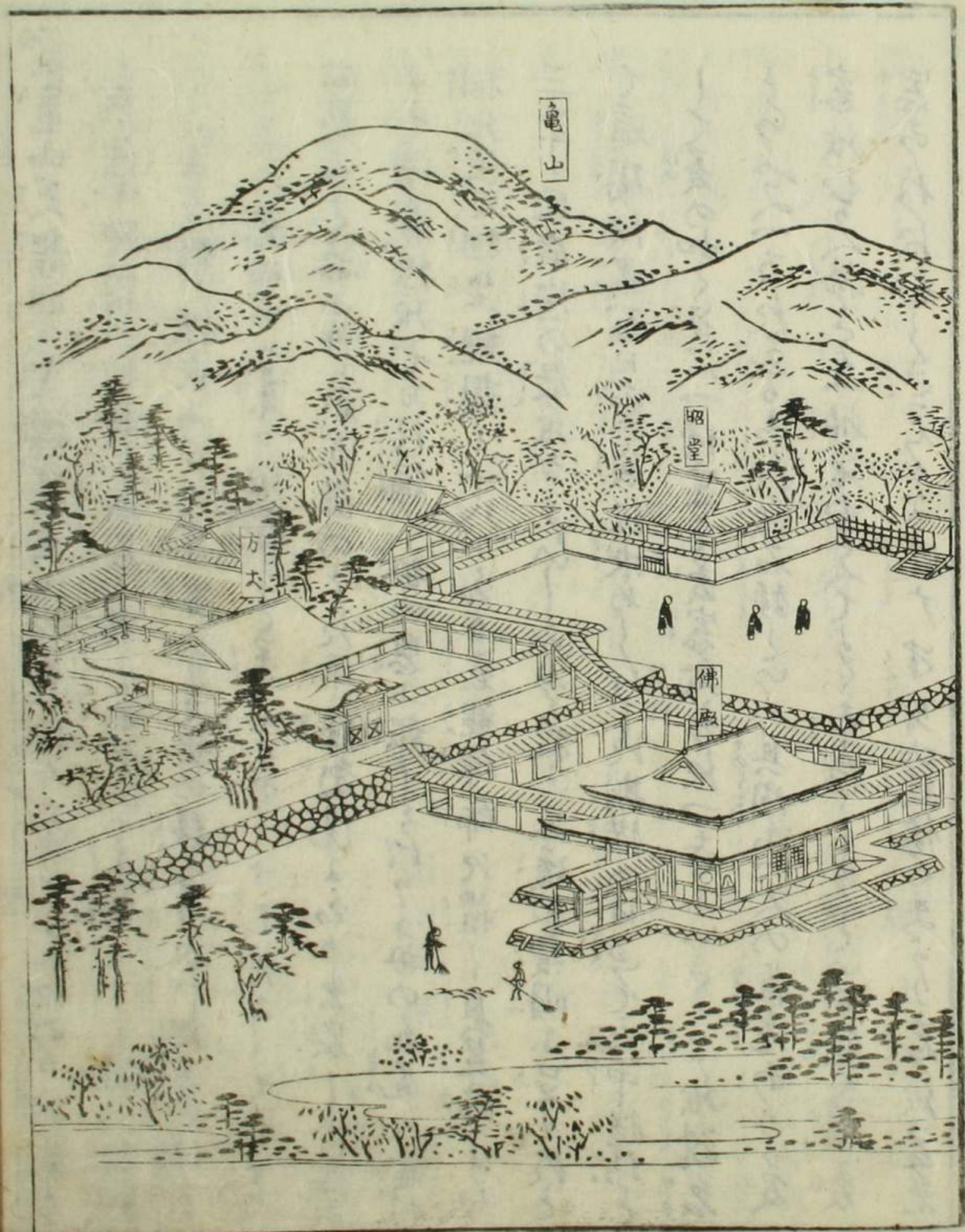
春あふふあひやせりてみるのたはるを宿ふ暖たれ

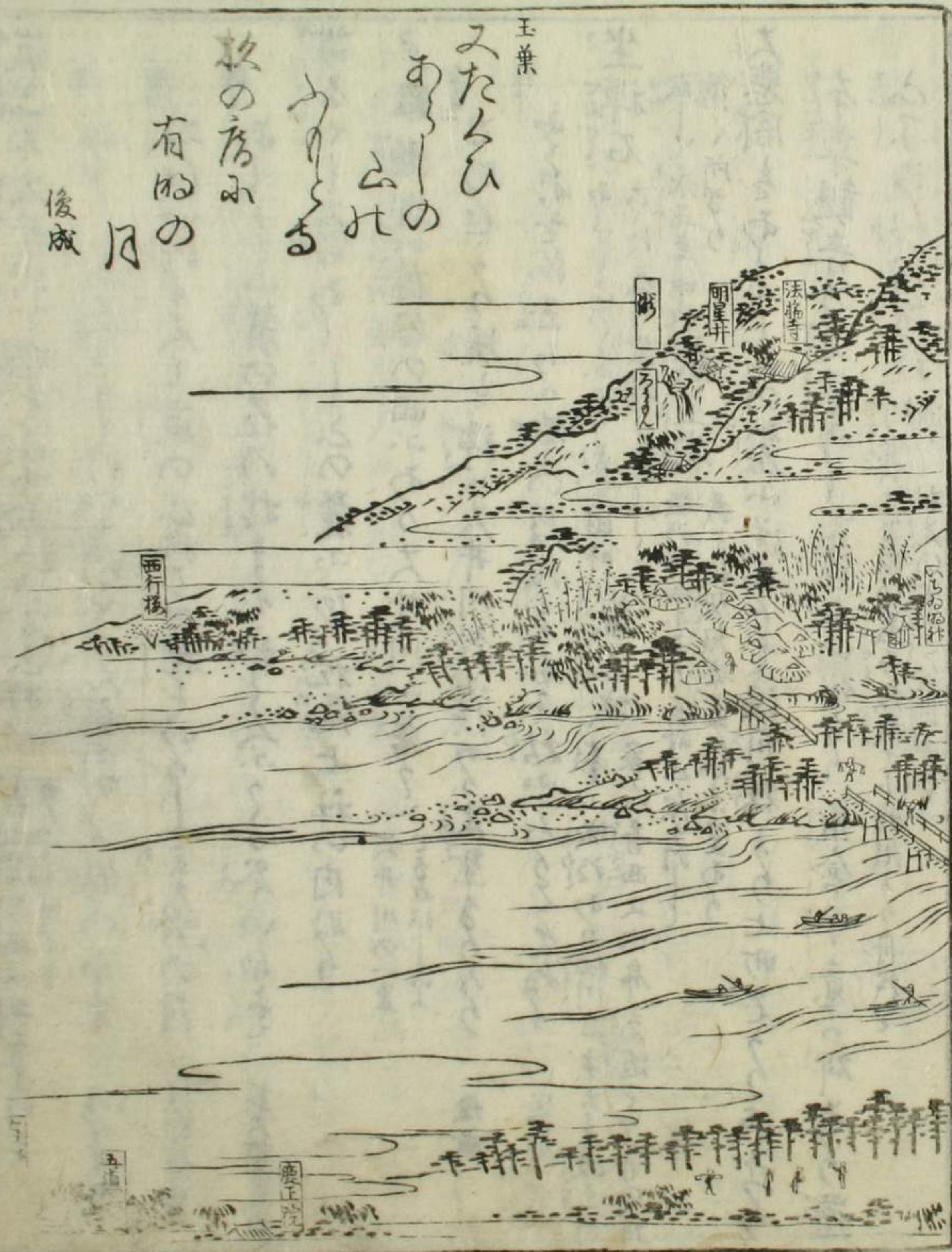
かめのとれ滝つは波あかりてあ代の穀る秋の夜乃月

子日さるらづくはあれと龜のとれ岩の松とたあまを引

新千

右上天皇
大納言通成
鳥家





玉兼
 みたんひ
 あ〜の
 山れ
 あり〜る
 秋の房ふ
 有ぬの
 月
 後成



嵐山
 法輪寺
 渡月橋

城跡

座禪乙

法輪寺

渡月橋

大徳寺

大井川

渡月橋

渡月橋

川寺三會院

三寺川

三寺川

三寺川

嵐ふと大井川と帯て小向くくるふ形り 急山院吉野の橋をくぐり

新 わくしふ星もようわやうのく人橋ふりつる流の白糸 後宇多院

新 ろひつり人も嵐のふれふ粒ぞつりし夕明の月 法印静賢

後 わくしふ麓の花乃摺きそをく人ふりつる谷の白く 前大納言為氏

標谷やろりわくしふの麓ふり松尾七社の内形り

戸難瀬瀧の標谷の西ふり大井川小落り 大井川の一名

玉葉 とろせより流を淨り大井川終ふはめる本葉ありたり 後成

坐禅石 あくしふの上あり愛徳園呼 嵐ふ城 峯ふ城あり細川右衛門を改之の

大悲閣とあくしふの林藤ふ道ありては月橋より七町をくろ西をり

本尊観音の立像ありて意の他あり用倉了意の碑あり羅

ふ子あねは振振 了意大井川の岩を截て小丹はより舟代と

智福山法輪寺は液月橋の南ふり真言宗ありて本尊を虚空藏

菩薩の坐像あり 道昌法師 脇士と明星天雨寶童子あり

交當寺は天平年中に建立ありて葛井寺といふ 天慶の虚空也上人とて住て

中興の岡基は道昌僧都姓の秦氏ありて讚別香河郡の弘法大師の

真言の密法をうけ虚空藏求聞持の法を修せんといふは一日系

光炎頓小耀て明星天衣れ袖のく人ふれ 具體滅せは星生身の尊經ありて

道昌則虚空藏菩薩の像と刻袖の像と後ありは弘法大師の法

閑眼供養ありは是當寺の本尊と貞観十六年の阿弥陀を改ては橋とて

落星井 又明星井といふ本堂は南あり井のく社と建て明星を 東橋 橋のあり

泰參堂 本尊の智福をりて道昌断食の室あり

本尊の智福をりて道昌断食の室あり



大堰川の水を丹波より流し水尾川清流川小落合ひ猿走龍門窟
大瀬等の名ありそありと流帯しは月橋舟終て末の梅津桂の里
のむらじ流流れと流川小落

新古今 延喜れ清とた大井川小舟幸ゆる日

かきさく小舟今と菊のつらふは流たふもあやとらん 板上是則
拾き 大井河川色の松みまことりてあつ津幸やあつしむつも 夢さ
は 色くの本葉さる大井川志もあつの紅葉とむらん 忠孝
け河の流れはの小清くうめてあつ一度とむ水の美河あつ引く下
筏のあつあつ遠近れ騒人扁舟小舟の棹さめくうをこれ岸あつ乃
回ふよとまふあつめ水れあつさつ花あつ又浅水あつ職つて繪とさ
あり水上小踊る若鮎の釣と争つ牽動とあつ染み小石らるる所へ網と
あつて夜ふ入るもも狩あつた凜々さるは風り暑と忘れ強増れ興ふ乗とて
月小歩し帰るももり 續文粹の天下の勝地は 大堰川小過るるを那し
城中の名區は 渡磯野はあつあつとらん右大堰師房卿も宣ひしと

月橋大井川小ありと法橋寺入流る橋ありと名を津幸橋法橋

橋

大井河 香るるゆの樹の上小舟人さる雨の如き 前大納言為業

小督橋大井河の小三好茶屋の東藪の中あり小督局の橋町中納言

成範卿の女禁中一の房人さるびねた琴の上と高倉院に清愛妃

ありし車相園清盛ふ忍むけ渡磯野小舟の弾正仲園の勅を家と

寮の清馬あつらつて明月小鞭とあつ西とさつとあつゆとあつゆと

山里と詠し人さる時秋の夜のさつとあつあつとあつあつとあつあつと

龜山のあつとあつと松のつむとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

千鳥の小督橋の西武西とさる小巖あり 平家お流るる

横魚の流は小離れとけ所小舟と流 由盛表流あつとさる 遠とあつとさる

西行橋 法橋寺の南あり西行法師は所小修て撰定なり今この地は法橋寺と云ふなり

靈龜山臨川寺 後月橋の東あり禪家十刹の第一なり

三會院 本尊の弥勒佛ありて坐像の佛殿の額に三會院とあり

より用山 差窓園師の初め 當寺の庭を

鹿王院の臨川寺の東あり禪宗ありて十刹の佛殿に在る釋迦佛

脇士小十六羅漢と安室に運慶の他用基普明園師の像尊氏公の像

右の壇上小安室に當寺の本願の將軍義満公ありて至徳元年の建

立あり付寶不佛舍利あり 傳小日備倉將軍安朝公の靈愛によりて宋國の初

後光嚴院帝の御差窓園師の初め 傳小日備倉將軍安朝公の靈愛によりて宋國の初

今當寺小あり毎年十月十八日舍利會と修す

車折社 下暖材木あり 五道眞官降臨の地ありて一は小清直人

そののり息牛御車折しを今に遠近の商家賣買の價のゆゑ遠き

寺は社小新し小石をとりあり家小押さぬ備前の件の小倍しては所小

五道眞官降臨王宮の廳ふちく長久保に金札焚札をて遠きを在る社

右栖川 栖川町れがうにありゆより流る 齋宮 有栖川のあり人衆の

千早振ろのまれ有栖川松とりの小をのけいすむら 京極の

帷子辻 帷子辻の東にあり上暖下暖を泰常盤廣澤愛宕等の別れなる

安堵橋 帷子辻の西にあり清涼寺のやうに火災ふり未梅檀の香比叡の

是より名はれ 甲塚 安堵橋の左にありゆの西の油掛地藏橋の西にあり

常盤杜 此れあり杜の下に石佛のし子地藏 杜の西にあり六地藏の具一なり

常盤墓 地蔵堂の傍にありの庭にあり半若丸の母常盤前け里の人ありはゆり

新宮 表柱とありぬる盤のふり人々や面ありせぬ 在る方

手集 漆ありとありの杜の梢よりありぬる柱のまじりたるれ 中定

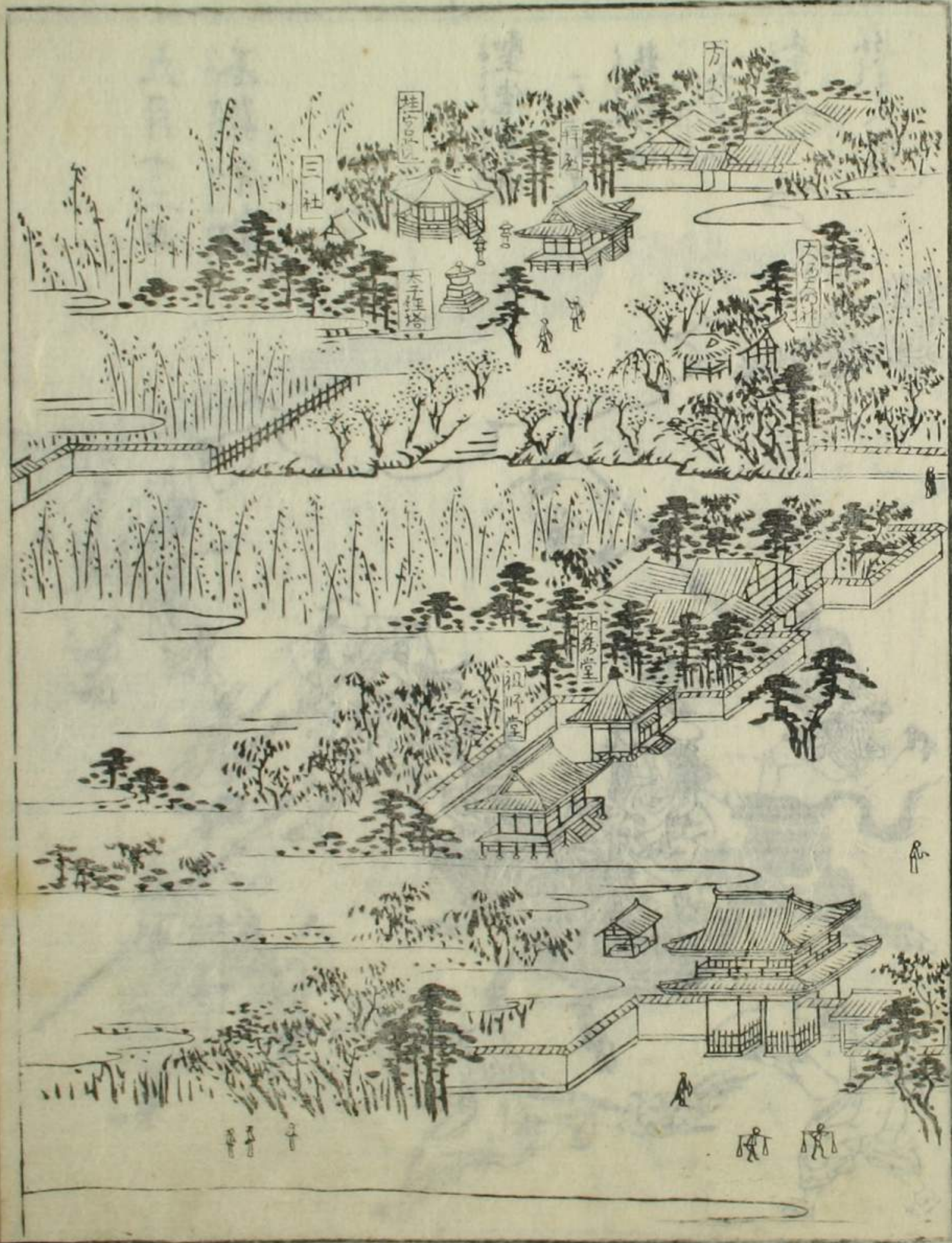
新後 初宮のまじりたる杜の深ぬるも柱よりなるれ 定家

古御所 常盤の東にあり八条女院は所小藤本 杜の東にあり撥本紀係

藤本 杜の東にあり撥本紀係

杜の東にあり撥本紀係

杜の東にあり撥本紀係



九月十二日
石秦牛糸

聖徳太子

執刀し

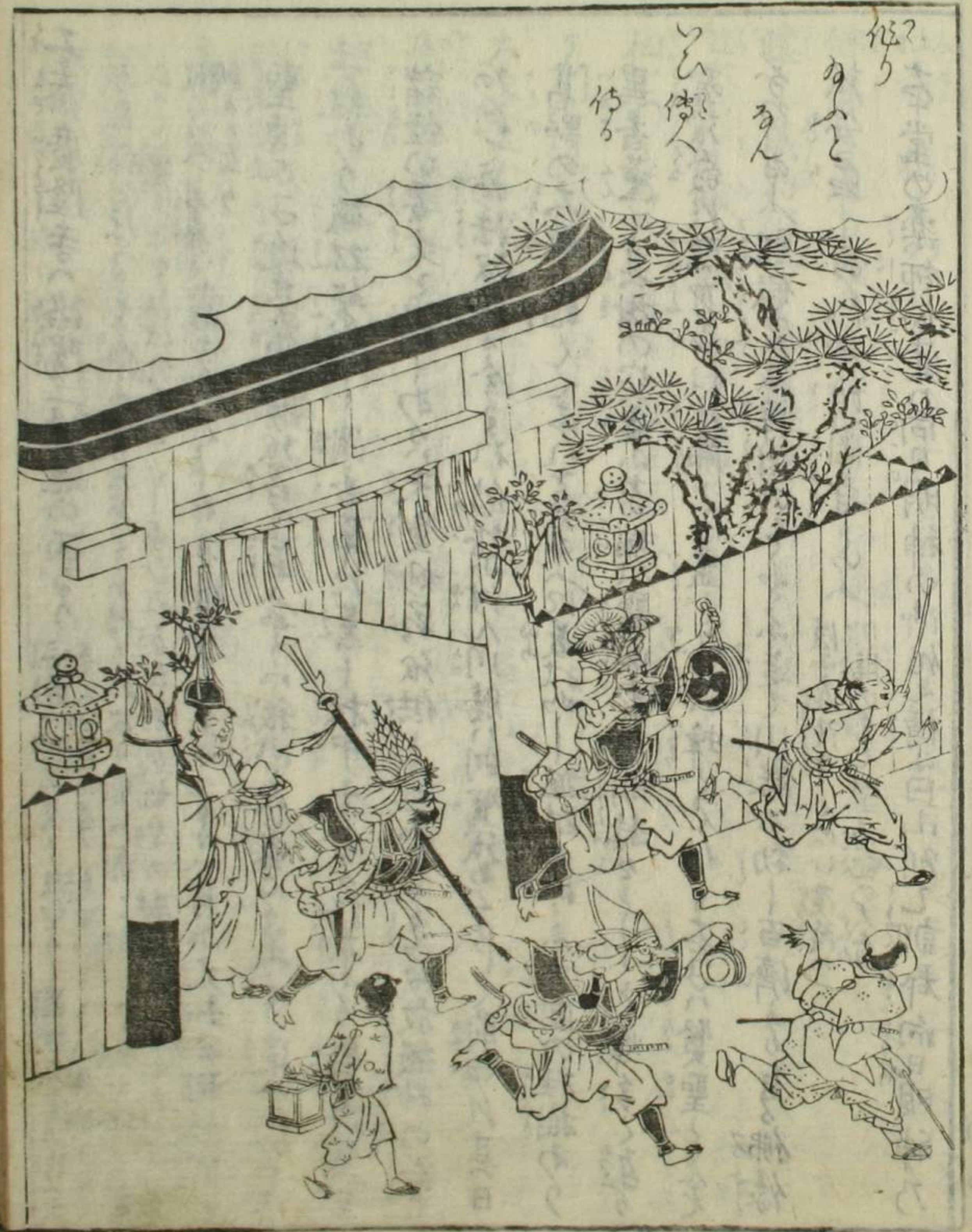
たすむ

糸文ハ

弘法大師此



何々
何々
何々
何々



を秦廣隆寺ハ洛陽二條通の西より

秦の野の名に依りて應神天皇の行宇

み帛綿とほくろと人の膚を以てめけりぬ故に秦の國に訓を以て成と稱す天皇
ふく賞いとまひは地をくくつしめ秦氏則秦始皇の廟を建たせりたりと

聖德太子近於秦川勝原召て宣入申し我は夜夢を言ふより遠山の吹ん

一村あり楓林繁茂し清香常に薫ト林中小大なる朽木あり無量其聖

諸經の要文を誦しわりの天童妙花依供し又本より老松放微妙の聲

のりて妙法演進の今まれば地小住ん川勝ハ則驚れめづりて前駆其日

葛野の大堰小臨んてまんとおれ爰れぬ楓林の仲又大園の桂樹あり

異香薫し其樹の空虚小瑞寶密あり光明赫々として蜂多くなり

聲を發し隨身ありを拂ども盡し凡人ハ蜂とんれも太子ハ賢聖とんれ

かりぬハ則假宮城蜂園のともを造て川勝小勅し百濟より來る佛像

城安正しまはれ蜂園寺といふ

太子堂の薬師如來日向日明神の所住之傳小曰山別し訓郡日向日明神乃

後小原隆寺と改む度隆の
川勝の多し伝記の大意

社前小橋本のり後回の年を歴きく後を一日異人來て去り後伐く

佛像依造り南無醫王尊薬師佛と稱し忽神殿入て了る衆人足依竹

聴く集ねに去りも靈驗ありて耳目と尋は日郡大寺

出た小智威法師といふ人唐より來り居住り社司等の傍ふありて都鄙

袖とつゝ〇〇群詣り感應はとく新より智威没して後丹後石佐寺に

うのを具後清和帝勅して當寺の本をく

太子堂小聖德王清自他の

御下衣衣袴袴内着石帶等依每案矯進ぬ

地藏堂

鎮守社

石燈籠

大酒明神

桂宮院

階煬帝より推古天皇送りり人本をて聖德太子の像清自他して坐像あり

今太子堂一千八百一十年例給とて付置
小守屋退治の軍配圖あり天保の圖と稱す

鎮守社の前ふありて板敷しすなり
伊佐羅井も毎天社

太子堂の西一町あり八角を推古
天照を神ハ幡宮天満天神依

太子堂の西道の中央あり
天照を神ハ幡宮天満天神依

太子堂の西一町あり八角を推古
天照を神ハ幡宮天満天神依





別荘

三小祠
四大社

本社

本宮

大日堂

合和殿



松尾社

後法持遠

飛の尾

松の尾

山の

あひ

草

かろ

近

初

順徳院



茸物や

鼻の

さ

形

ふ

の

真角

明智坊石像

月讀社

松尾

南

二町

あり

松尾

七社

の内

あり

當社

鎮座

の

南

小

松

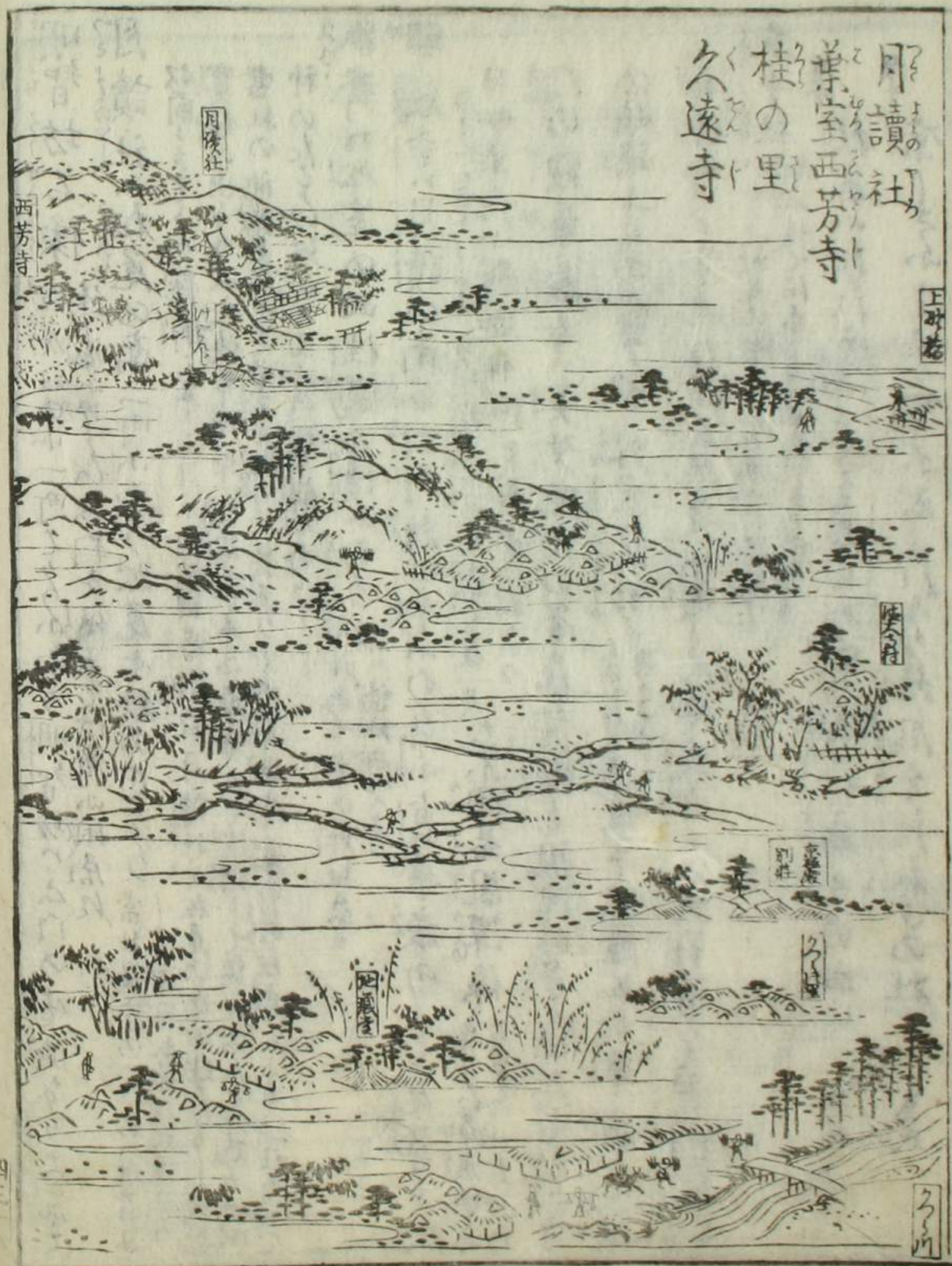
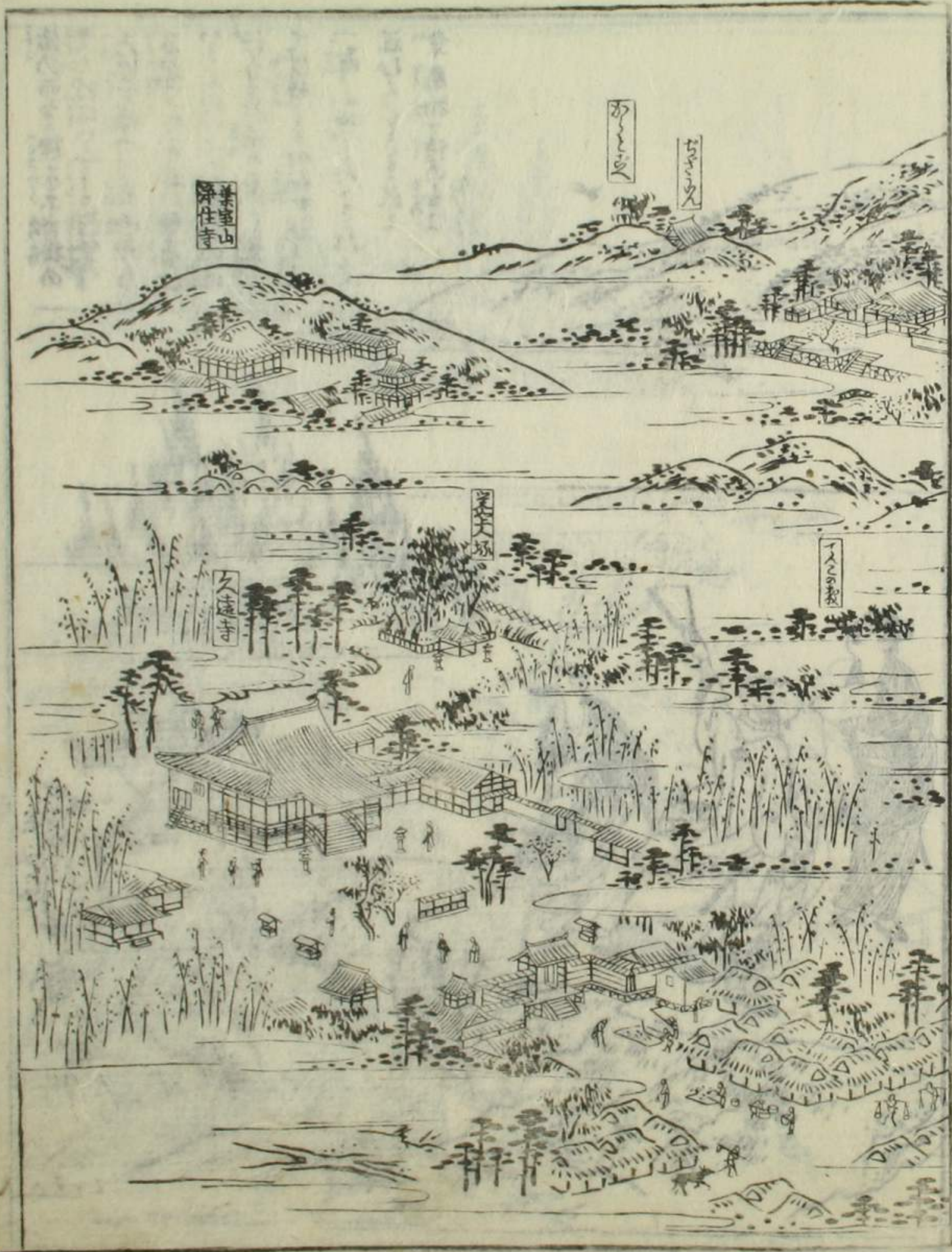
尾

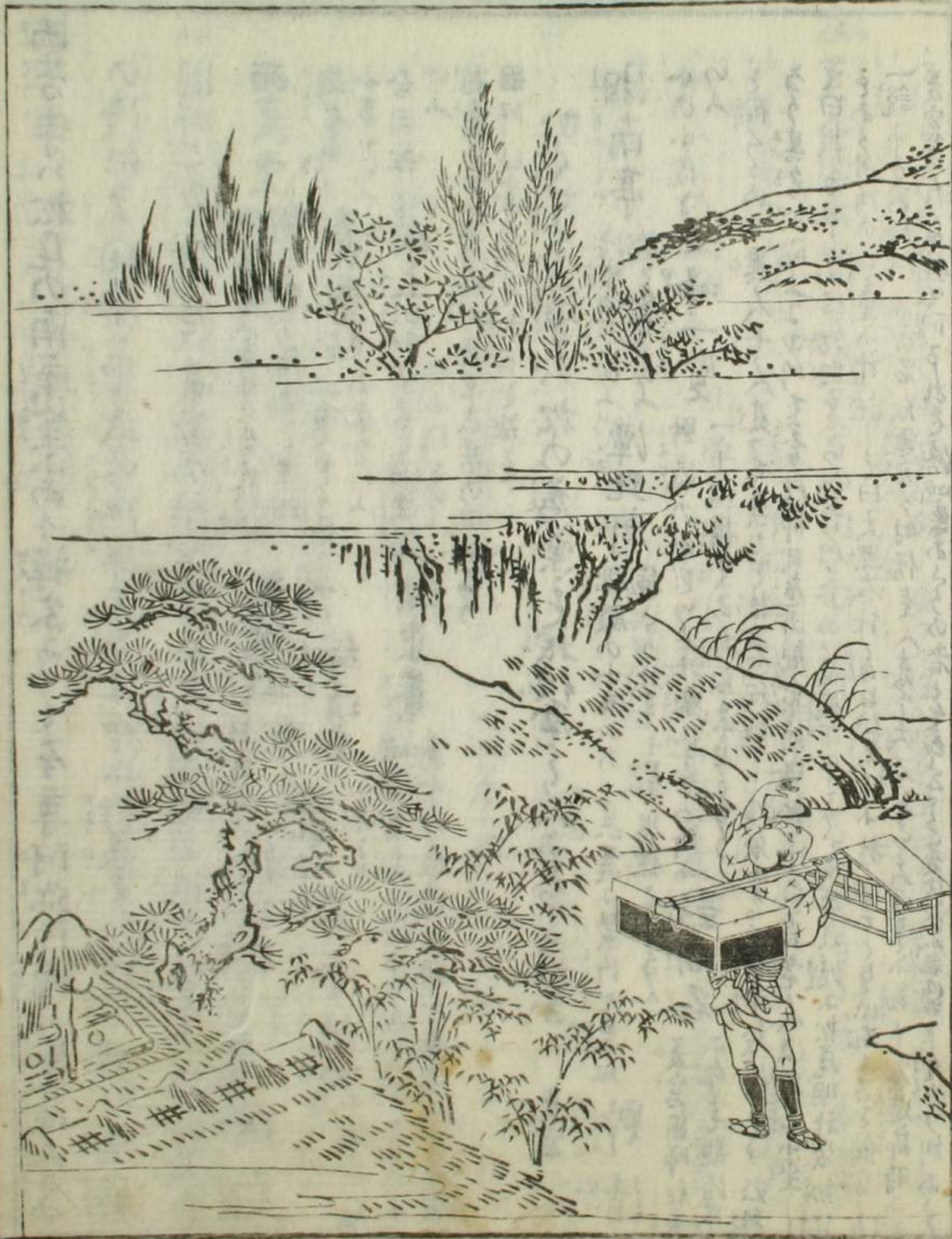
の

南

小

以前より定より齊衡二年三月小松松尾國野郡月讀社を松尾の南小松尾より
 實録不出より又文徳帝平宇仁壽二年小松尾大松尾に諸人より松尾に
 當社の神託ありてその害を救ふに是よりして貴姓松尾の災を免んよめは社小松
 神のたより祈り由二代實録あり
 狐齋の松室の西性還の傍あり小社あり幸の神あり
 華嚴寺の月讀の南谷村竹林の中あり小松尾の南谷村あり
 日如来の釋迦佛頭小室冠衣戴く長一尺 小松尾基風潭像左の手に如意杖持
 門の額華嚴寺の芙蓉隠えの字を右の懸と風潭の字とけ所最福寺
 の延朗上人の像あり谷堂の旧物なり 近年風潭和尚華嚴寺あり
 再興ありんとて松尾安照寺に遷して華嚴寺と改めけ地神の七社
 衣手社樹木絶て河系とる松尾の社也
 林毎ふたれり深んるまぬわぬ乃衣手の社
 涼しき立するの松尾をた衣手の社
 馬氏



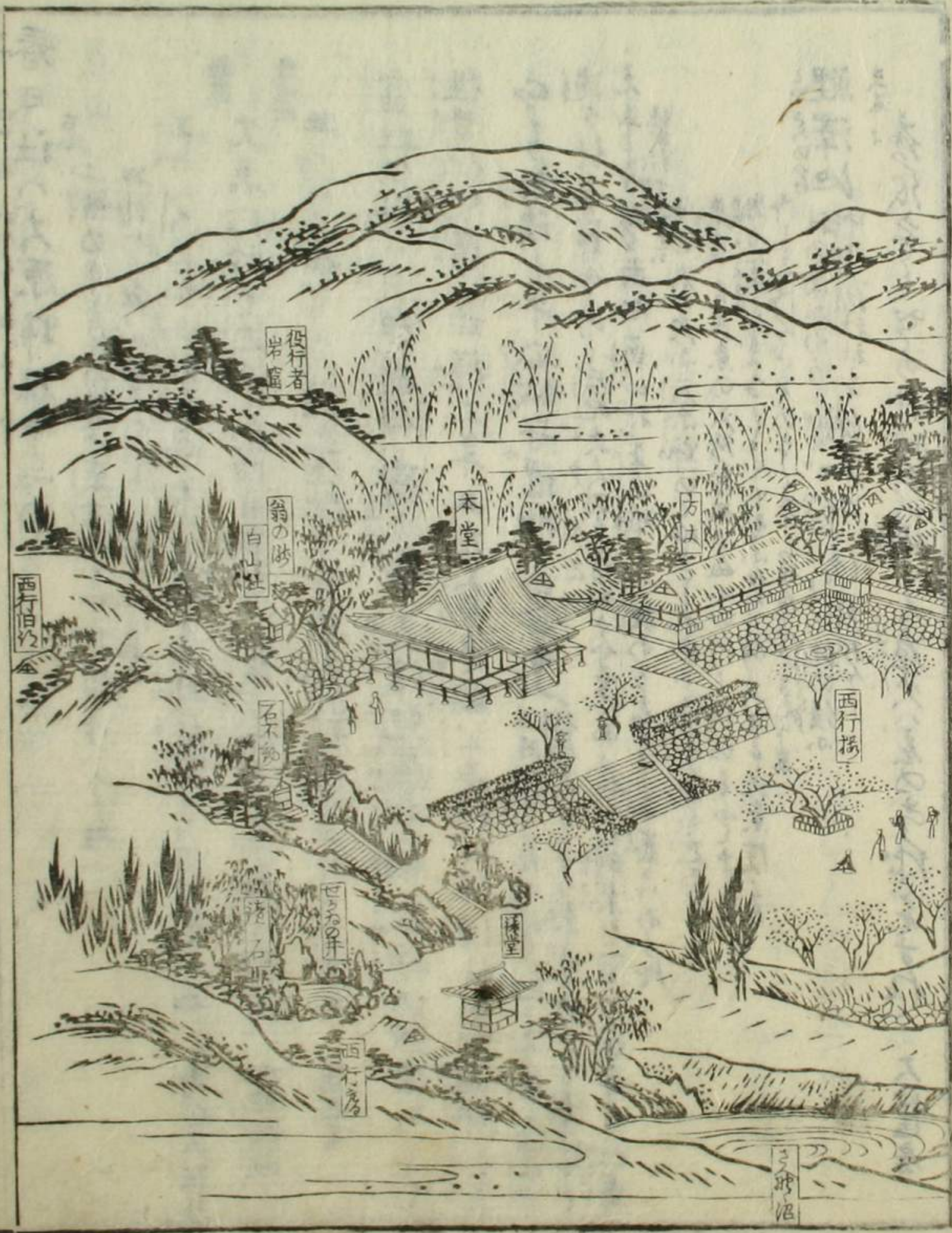


洛の西より極本末背掛の
 里大木はいつとも樹木あり
 乃に老海へて岩あり
 子奴をくそ有れ豎るは
 やくらんはいつとも友のほ
 げんら後海へて岩あり
 ては碎くも何れのまの
 一海小舟くろくさく
 福むりてこまは
 韋應物詩の如く

西芳寺ハ松尾の南葉室小あり禪宗にして本尊阿彌陀佛ハ聖徳太子
の清化より因基ハ聖武帝所宇天平年中小行基堂ヲ建中興ハ後窓
園師之方丈の在ハ後窓の他之庭中の造化四時の風光玄妙ありて之に於
西来堂 佛殿より入来堂の傍に 瑠璃殿 無縫園の
龍舟の傍に 賣風店 小頂へせり道の側の 縮遠亭 絶頂の
小亭あり 指東菴 小庵あり 指東菴 同ハ後窓の塔より向上園より入
合同船と向上園 方丈ハ指東菴 指東菴 同ハ後窓の塔より向上園より入
指東とハ是真如親王の居の旧地あり 園師ハ室入りておととと

かくせり道とハ松の葉と我は松と人ふちりては 後窓
湘南亭 中ノ亭より 潭北軒 佛殿の小西小あり具庭ハ紫竹七葉ハ 貯 清
橋と庭月とあり 野池の南とハ北殿山向ハ所ハ 影向石 後窓園師親秀
小の小院と 士峰一覽 一字取構と云ねぬなるあり 松尾明神ハ
と開くハ日異人七人來りて其力を試むるハ松尾明神ハ松尾明神ハ
あり其多ハ松尾明神ハ松尾明神ハ松尾明神ハ松尾明神ハ松尾明神ハ
て曰我毎日此に松尾明神ハ松尾明神ハ松尾明神ハ松尾明神ハ松尾明神ハ
とあり所ハ松尾明神ハ松尾明神ハ松尾明神ハ松尾明神ハ松尾明神ハ
一説ハ松尾明神ハ松尾明神ハ松尾明神ハ松尾明神ハ松尾明神ハ
後窓とハ松尾明神ハ松尾明神ハ松尾明神ハ松尾明神ハ松尾明神ハ

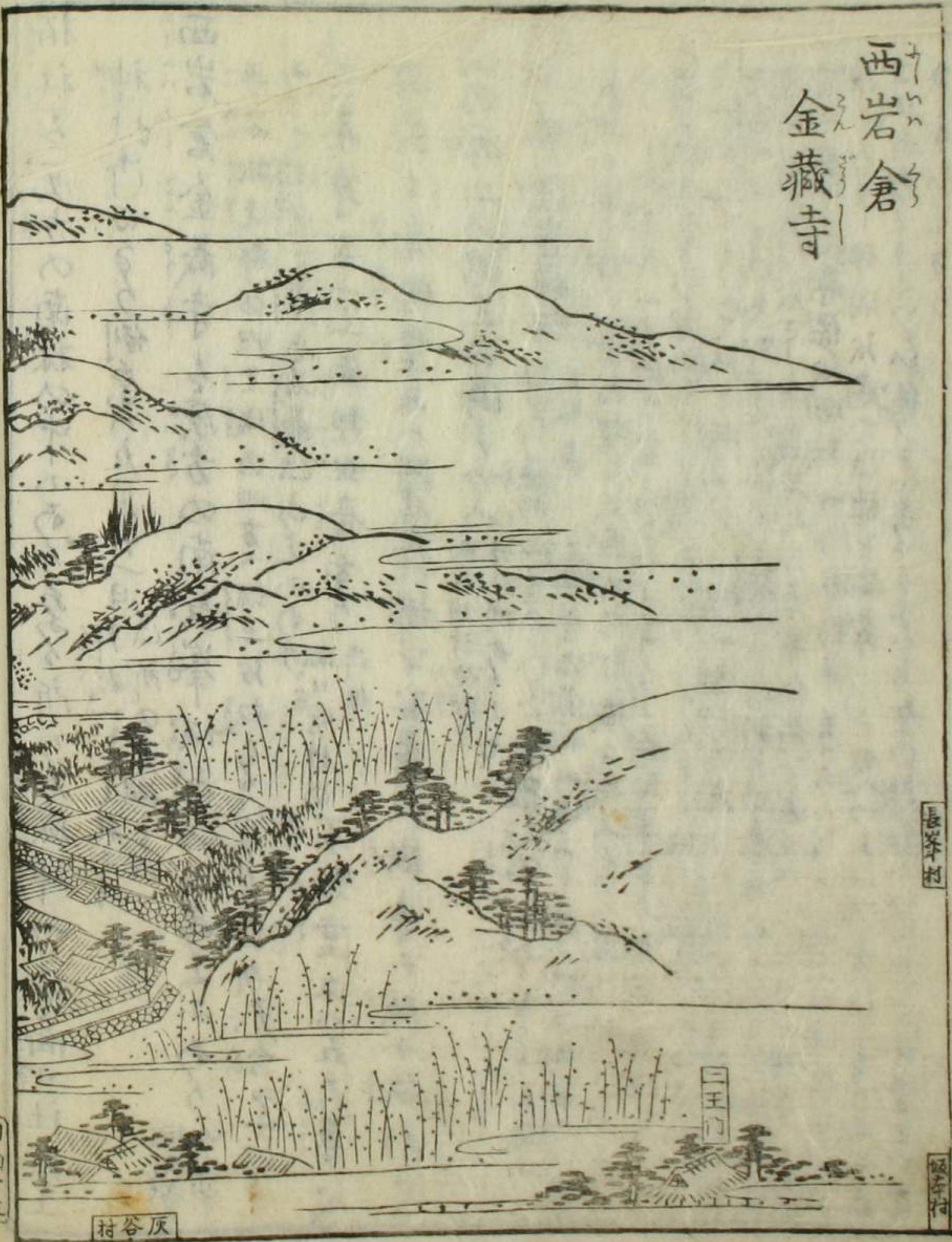
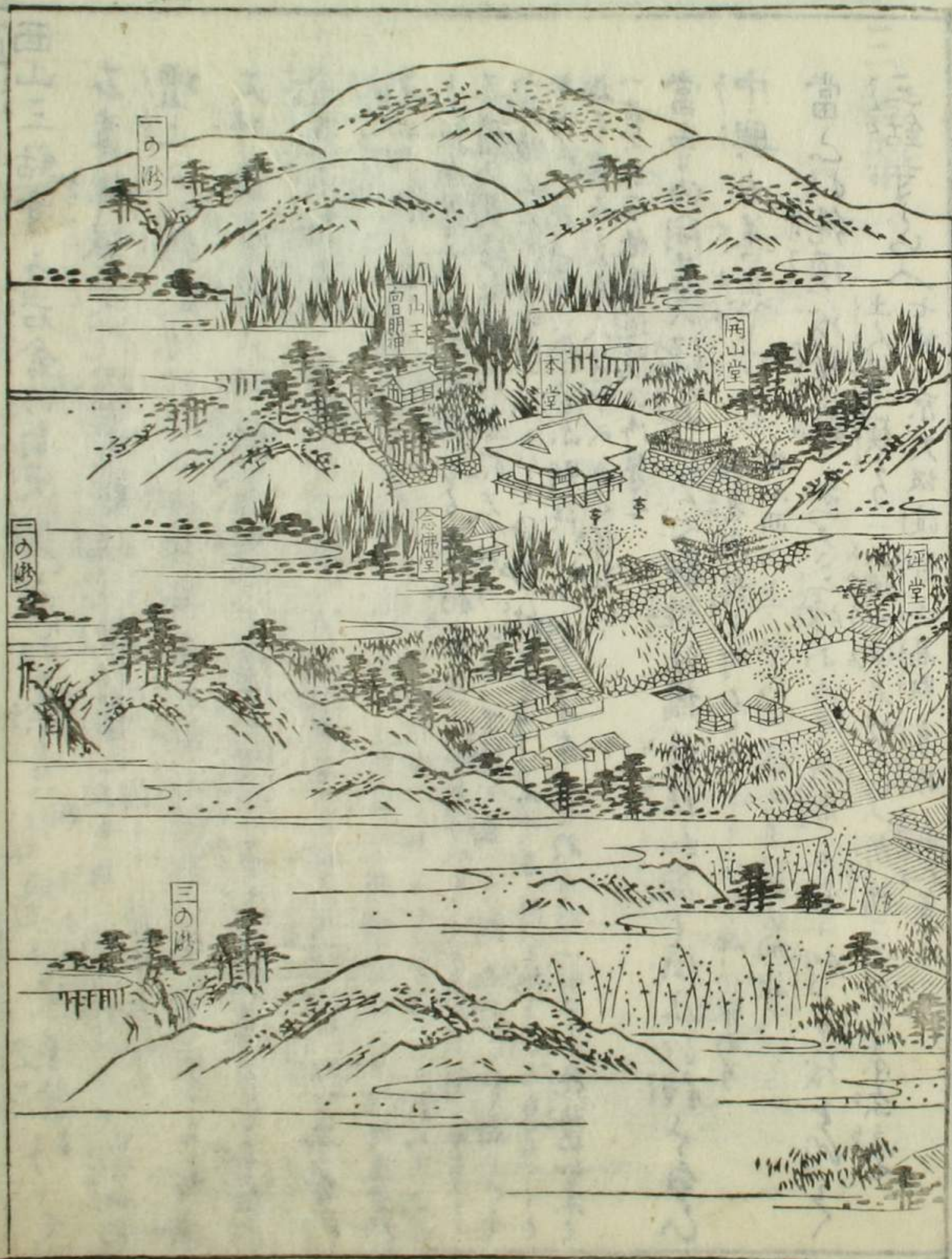
らけりハ其のころハ松尾明神ハ松尾明神ハ松尾明神ハ松尾明神ハ松尾明神ハ
けハ件ハ松尾明神ハ松尾明神ハ松尾明神ハ松尾明神ハ松尾明神ハ
衣室ハ地蔵院と西芳寺の南小あり禪宗にして天龍寺小属と本尊ハ
地藏尊ありて同ハ鏡禪師也 後窓園師の法嗣ありて 舊ハ地ハ衣室ハ
家良公ハ心莊あり 後ハ松尾明神ハ松尾明神ハ松尾明神ハ松尾明神ハ松尾明神ハ
應仁ハ兵ハ不懼て亡廢と云ハ 不動の井 松尾明神ハ松尾明神ハ松尾明神ハ松尾明神ハ松尾明神ハ
今運慶ハ松尾明神ハ松尾明神ハ松尾明神ハ松尾明神ハ松尾明神ハ
葉室山澤住寺ハ禪宗にして黄檗派之本尊ハ如意輪観音 七寸 天竺佛
小あり鉄牛和尚感得の尊像ありて之ハ同基ハ興聖菩薩と云ハ所ハ
葉室中納言定然寺ヲ建て閑居ハ 再興して禪刹と云ハ
天鼓森 小社あり由來未考
文徳天皇陵 下ハ田の南 御霊社 中柱村小あり橋邊殿と
桂川 大井の流ありて舟渡あり丹波道あり 桂里 川の原あり神代の月夜と云ハ所ハ
上野橋ハ十四と云ハあり梅津の南あり 桂里 小ハ松尾明神ハ松尾明神ハ松尾明神ハ松尾明神ハ松尾明神ハ
久々ののりのりの里のさよ衣ありて之ハ月の色ふるハ之 定家
廻地蔵 下柱小あり葉室七道の一あり 毎歳七月廿四日群衆ハ



花の寺

日野

長崎
女實石
指月池



西岩倉
金藏寺

村谷灰

長茅村

三王門

西山三鈷寺を岩倉の南庚谷合にあり宗旨は法台真言律宗兼學にして

本尊佛眼曼陀羅を觀性法橋の尊と信日本無二の曼陀羅ありて尤右の壇上又ハ釋迦弥陀の二佛安置ん惠心僧都の依之堂内ふを智者

大師像善導大師像善惠上人像宇津宮蓮生法師像等と安置ん

金色不動と智證大師の依之方丈本尊の寶冠阿弥陀依と安置ん

拍止阿弥陀如來の慈覺大師依之阿弥陀佛と拜せんとはのふおありあり

とれた本尊に向つて念佛する事念會を拜せんとはのふおありあり

菩薩の來迎衣拜の感信を拜せんとはのふおありあり

小龍歸らんとはのふおありあり

拍入てありあり

一巻ハ西三條道遙院の所等と

當寺の用基ハ源算上人の觀性法橋慈然和尚に依之

中興ハ善惠上人の善惠廟塔之町心よりありあり

當之れ絶頂孤鬘嶽と云く之碑ありて具形之鈷小似之なり

三鈷寺といふ土人曰く類より二大佛七城七城ハ京大坂淀郡ハ高取高柳龜山等也



三鈷寺

三鈷寺
七城
二大佛
善惠廟塔
本堂



又山坐堂

四十四



西山
善峯寺



小塩山十輪寺

中臣師宗

續後拾遺
巻七
秋の
名跡と
小塩山
麻と
こよひ
鳴あぐん

西山善峰寺小塩のふとあり天台宗ありて本尊は千手観音なり

は本尊は加茂の神本根本より行因法師是瑞と号し弘仁法師と号して千手は像を
依らして是は洛陽華堂の本尊と云ふ餘材と云ふは人の像を依る當寺本尊見たり

阿弥陀堂の本尊は慈覺大師の他二重塔ありて如來夜安坐なり

田基の源算上人 舊因州の人ありて孤となり道のくわらに於て一孤所の人
拾ひて養育し比叡のやせをせり髮受戒し四十余年登壇
壇重受戒功と棟惠心僧都の才子となり天長を蒙りけり坐し
七直夜坐禪を勉めし老翁歿せりといはれしは此の住持知坂神り上人早く
佛場を建てしなり大承可なり時小教足指本をて論難を平ふり化して去る
天聰再建し後一條院清宇長久二年の秋伽藍成就しけり

白山水 當山寶光坊あり源算上人如法經書写しけり仙翁石 依る上人
白山権現出現し五粒の粟を丸えたりと云ふなり

阿智坂社 當山七回の中あり觀性法橋是鎮和尚
坐禪石あり

尊圓法親王等の墳當山のふあり

小塩山十輪寺は若峰は蘇小塩里あり天台宗ありて若峰小属は

本尊は觀世音なり 花は皇西國必礼のりめ指 腹帯地藏 深殿皇后安履平安の
ありて故小禪衣觀音なり

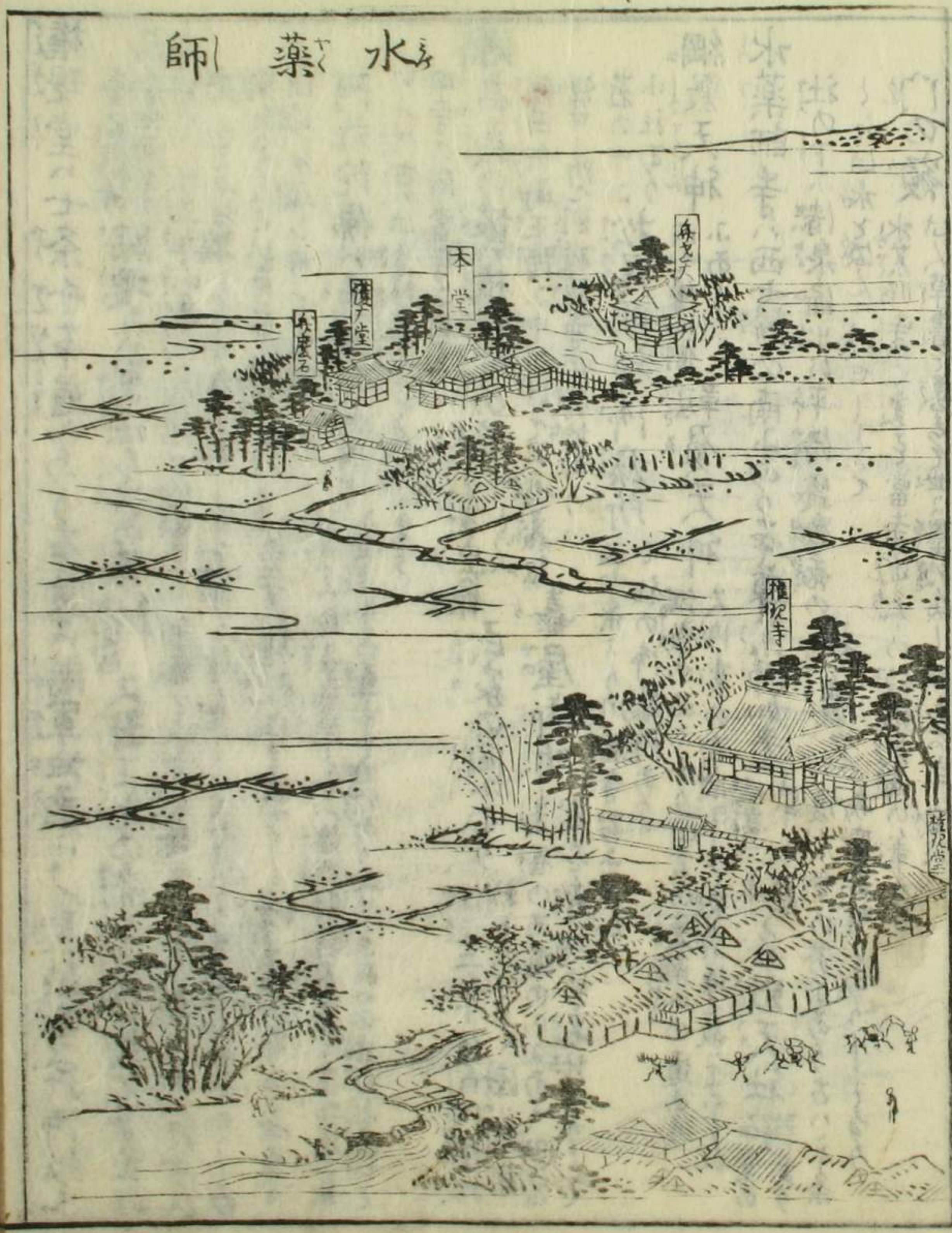
在原業平塔 當山西の塩竈古の 本堂のりしるふ上あり業平塔屋の系
々々あり

潮溜池 當寺より一町斗ありあり湖と
は池は汲溜しと

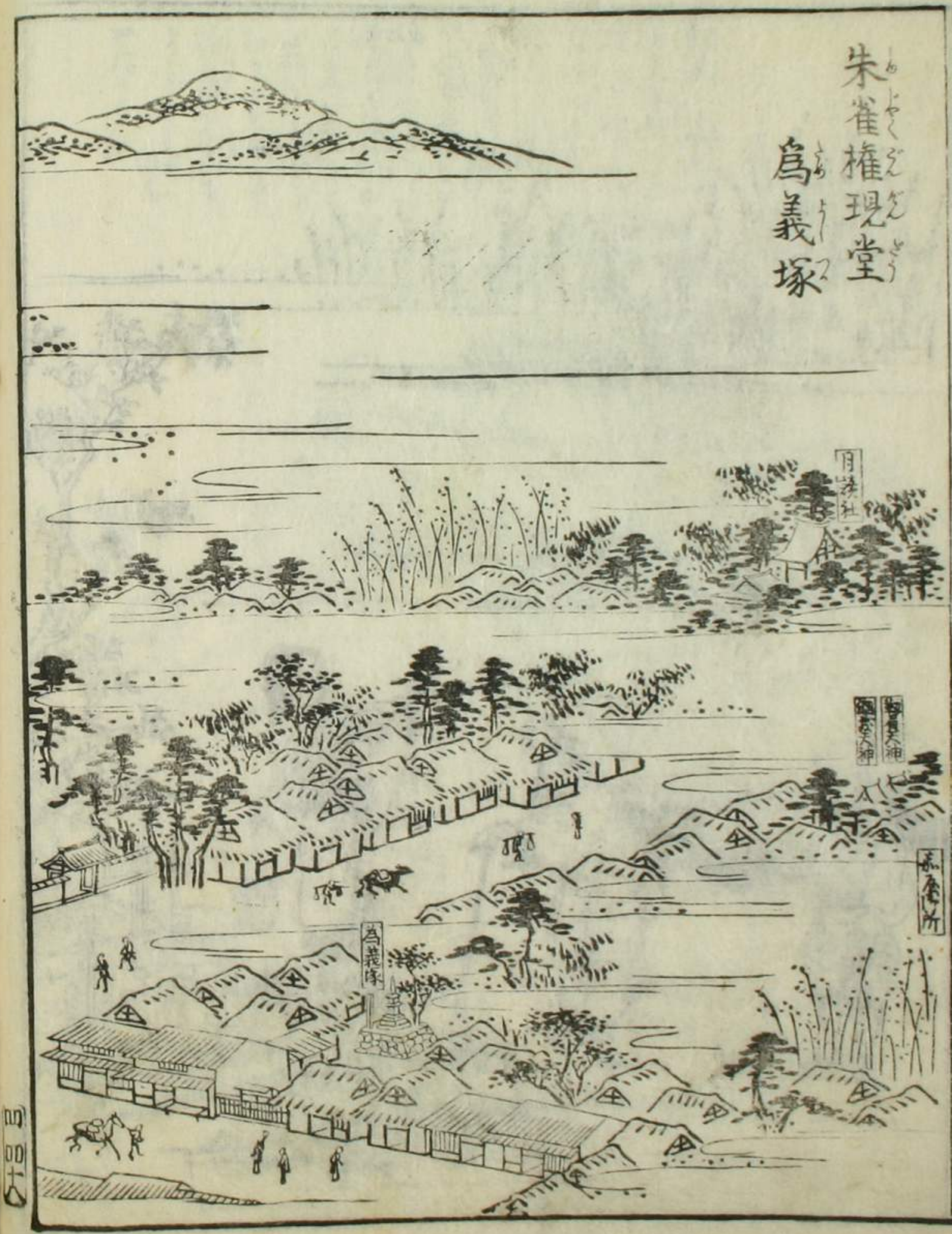
名は愛し新法より潮を汲せし所と焼し



水薬師



朱雀権現堂
鳥義塚





西寺
古跡

中教古跡

公伏塚

権現堂の七条千本通小あり本尊の勝軍地蔵の聖徳太子の浄化の
 愛宕権現の脇壇の聖徳太子の像又對王丸の守を地蔵と安重に
 本地佛あり 對王丸商人小引で引道より懸念は寺に頼りて住僧人商人に
 為さるるに忍びて善縁を成して天井は果してあるに善縁ありや
 用たるんといふ本尊身代とあり 當寺の権現寺と号し浄土宗あり本尊
 は御飯救ひのあり
 阿弥陀佛の恵んじたり 小歡喜寺の森とて田あり又橋西の字の堂の口と
 りの性古はも縁内ありて真言せり
 旧寺の圓當寺小あり
 源為義の塚の権現堂の前 本雀の古軒 氏家の間小あり 保元二年後白河院に
 鎌田兵衛正清小申はけて又為義の 嘉屋御所 本雀の西道の小あり田原
 津中前之那権現寺の持地あり 七社の浄土所あり 本雀の西道の小あり田原
 菰の中小 松尾明神 浄土所 西七条より浄土寺村なる
 細敷天神 西七條小側 靱負天神 細敷の西小ありは宮の東南小の道あり
 小あり 靱負天神 大内裏の右ありて靱負通之故なる
 水薬師寺の西七條の南小あり本尊薬師如来 延喜二年の財天社 本堂の
 社の下小清泉涌出に平清盛の病の 辨慶石 後堂のありあり古に七条
 とははれと云ふて云ふ
 水薬師寺と云ふ當寺近所の位蔵泉南の筆あり
 門の額 水薬師寺と善く世に墨跡あり明和六年寂に

松尾
祭礼



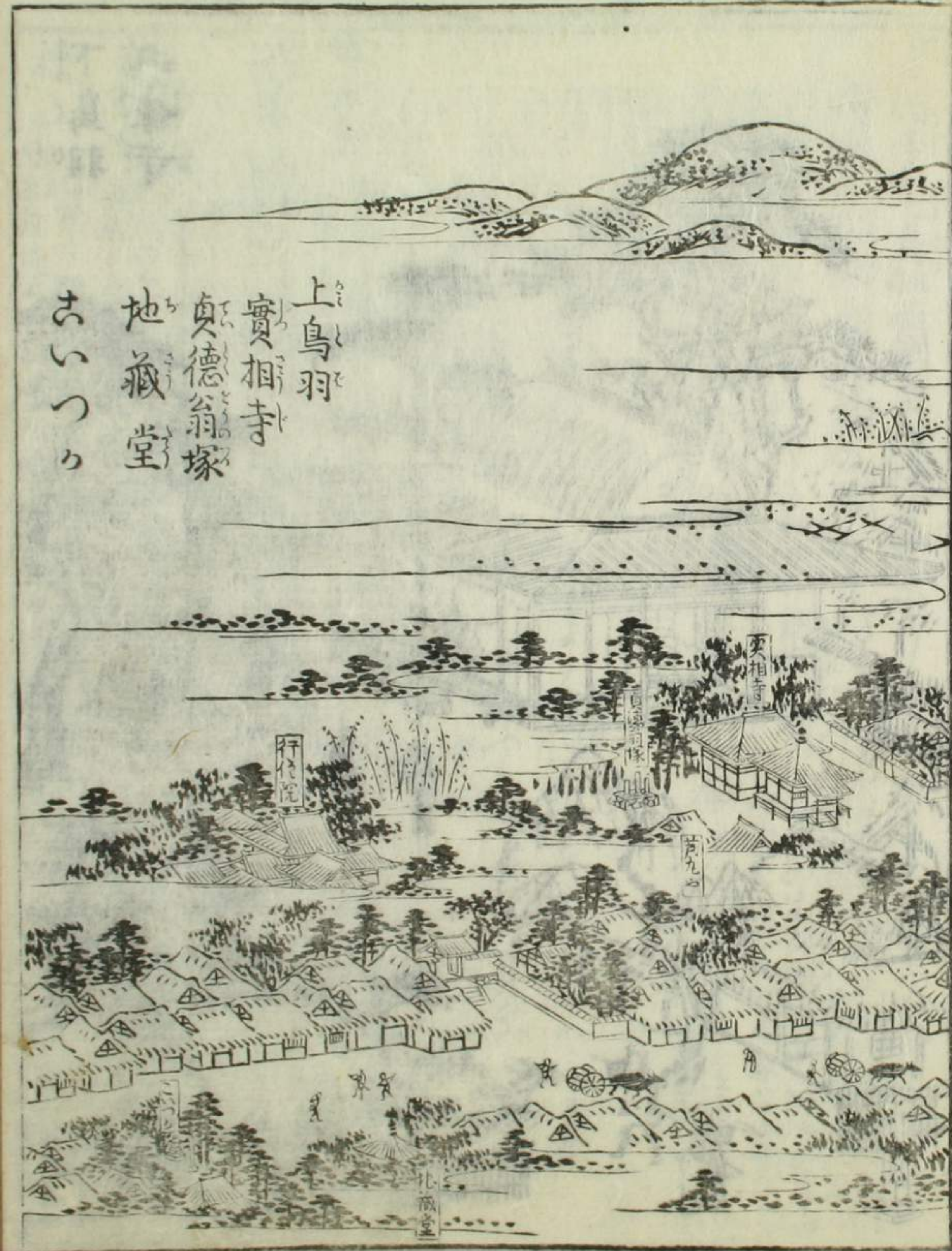
川勝寺ハ西七條の西七町あり
西寺ハ旧跡を梅小治にあり
唐橋ハ四ッ塚ハ西六町あり

吉祥院ハ満宮唐橋ハ南あり
天女を安んず
船中ハ一ツ風波の難小備ハ折

石原井
鳥羽里ハ四ッ塚の南あり

あやみま引人
あやみま引人
あやみま引人

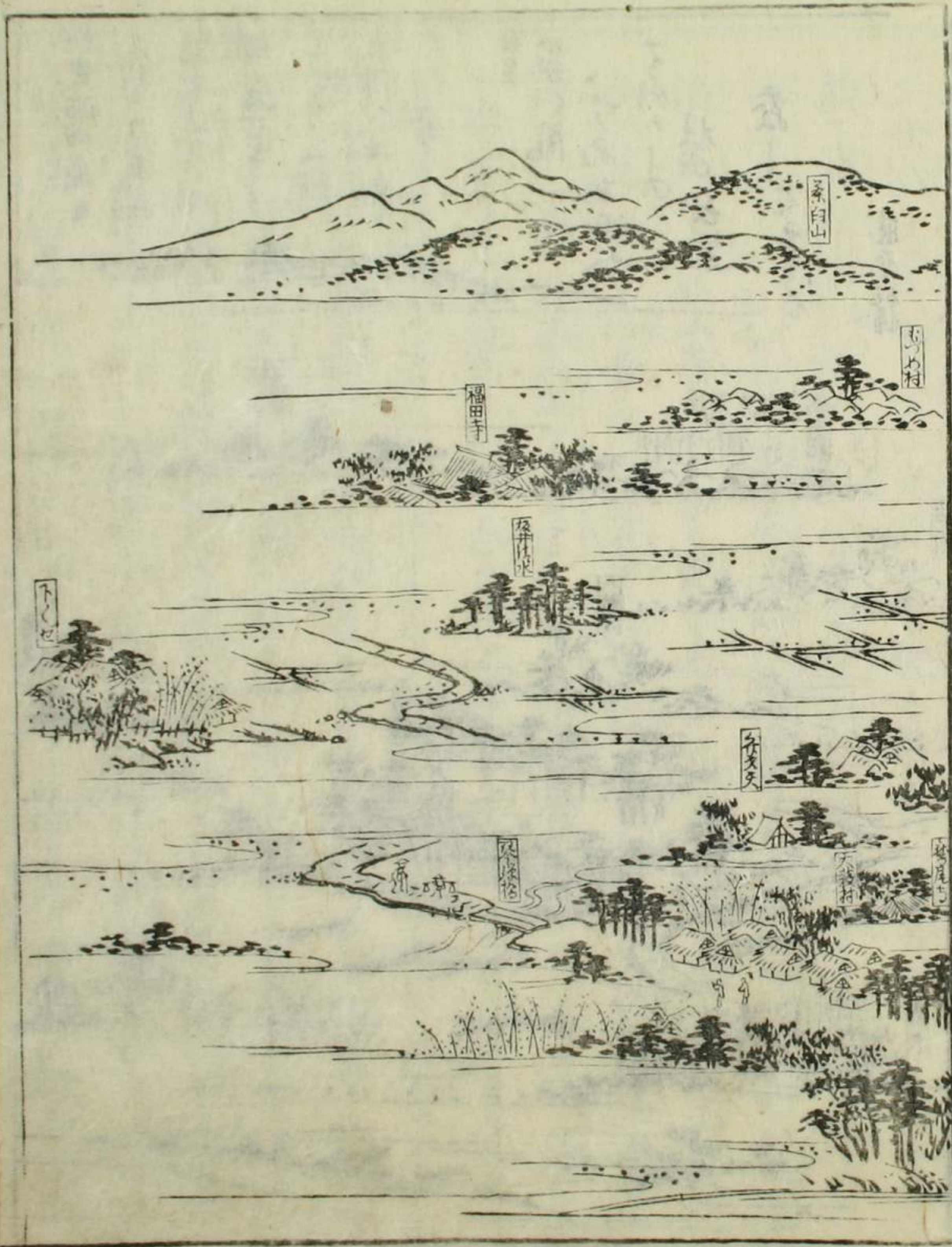
鳥羽里ハ四ッ塚の南あり
あやみま引人
あやみま引人
あやみま引人



上鳥羽
 實相寺
 貞徳公塚
 地藏堂
 さいつり



吉祥院
 天満宮



久世里
藏王堂
琴弾橋
板井清水

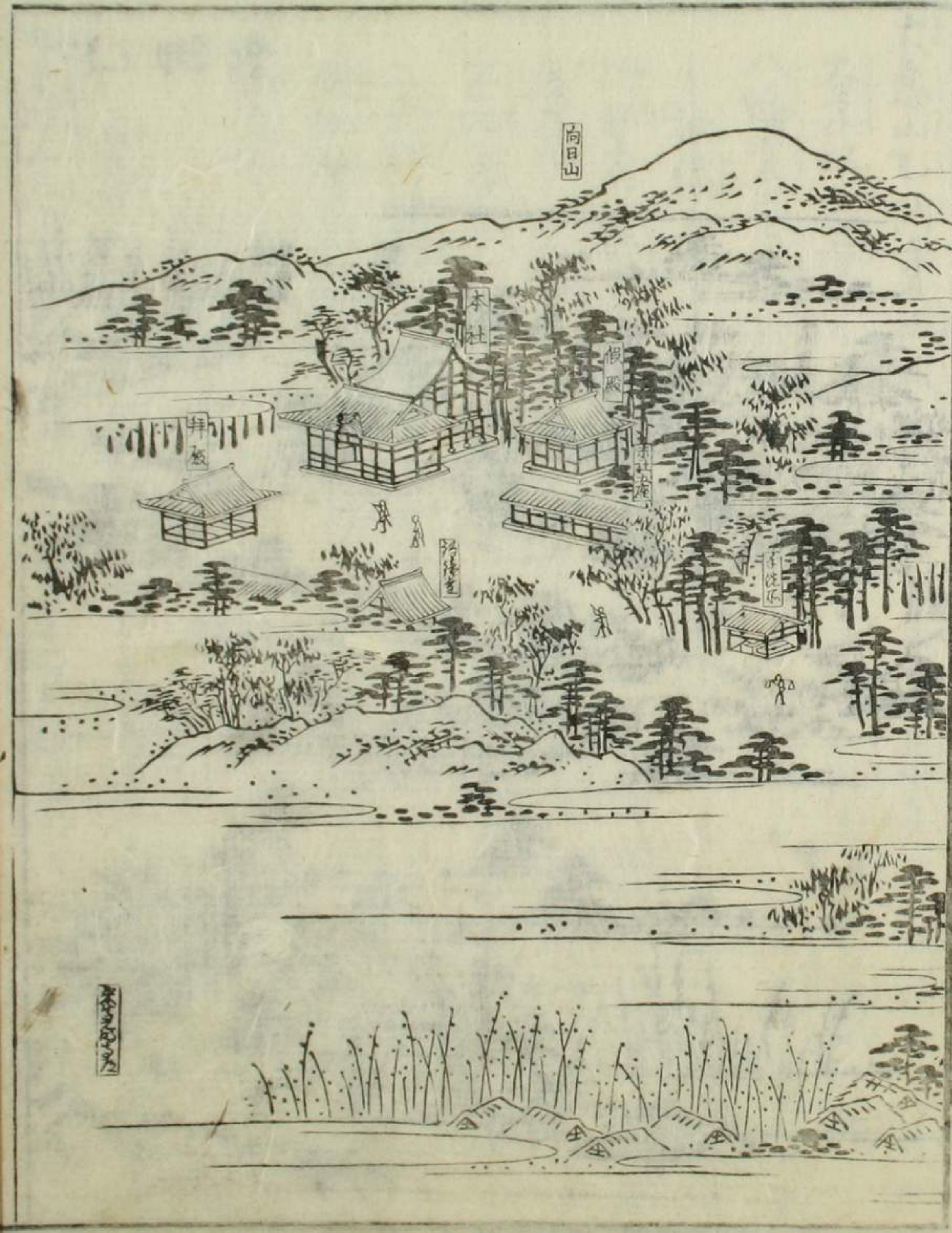
羽東師の叢を
 久世より里斗
 南よりて久我
 暖れ東にあり
 天の所の社
 天津兒屋命と
 結ぶ

金魚
 家の風
 ふりぬおゆ
 杜の云紫
 若一くえはる

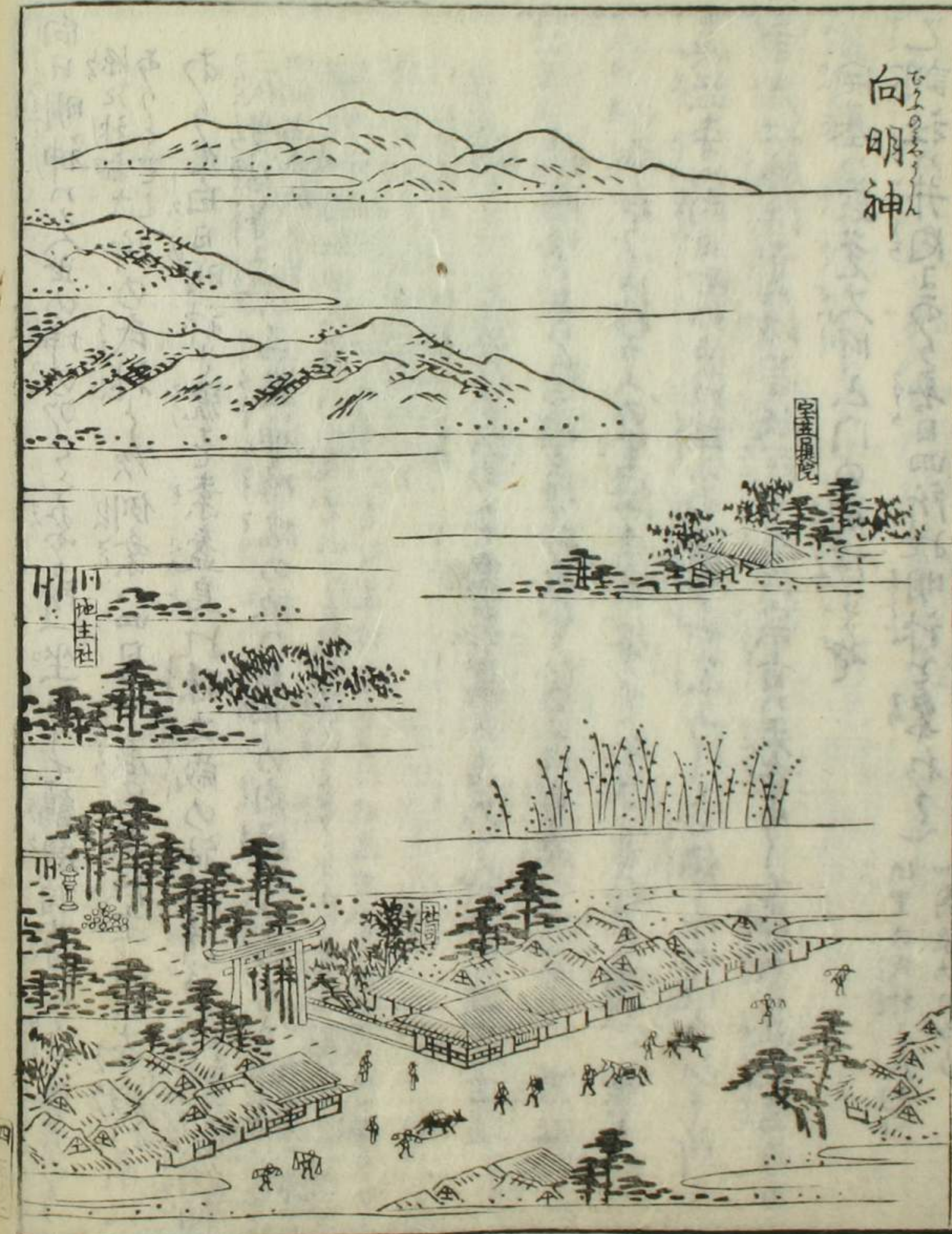


藤原家捕

世藏王堂の醫王山光福寺と號し宗有の四宗篤きありて
 藏王権現 後初者の他又三門の け寺の初村上帝の濟字天曆年中
 淨藏貴所 當寺の 吉孫の眞金御嶽に唾み給ふて心以密法流りて
 洛小部とてぬ夜爰もゆく現すもて藏王権現忽然としてあり
 ぬい宣ふやうは汝常には能くして神妙の多りと今部不爲る
 供を七承く有縁は流生娘さんとて貴所奇異に云ひて若くは
 と解て肩小結び脊に則肩奉を後と云ふに忽化して本像と有り
 桂川の西にわたり坂上りて持ぬる鉢を河の水に落て水さらけりて水の
 ぬくにあつて又一の木林のくみ光明ありてそれと女賊天の長場と云ふに於て
 藏王の神像大石にめくめて初は是を有縁地と悟り則州彦わさる
 持念を日しき夜西のくみ大さき椰生及又明天老翁ありて椰小向
 辨賊天醫王善逝と唱へて拜と貴所をば後官は羽をて女賊天権臨の
 地より今時よりか藏王権現に地を好め早く仏園と建て安住せ利益度大



七面山



向明神
ちのけのまへ

向明神

向明神

寺訓乙



大慈山乙訓寺の西岡今里にあり當寺の推古天皇の御孫ありて聖徳太子に開基あり其後弘仁二年の冬弘法大師別當職に補八幡宮に示現紙幣あり大師は像紙彫刻ありに所首の八幡宮化現一神像よきまみり足蜜法擁護のありたり故に神佛合體の御影といふ當寺の本尊足之御載三月廿一日開帳を又寛平法皇脱履のころも行宮といふ人足はよめて法皇さまも名づかいありて方境廣大ありて伽藍嚴重なり中頃南禪寺の伯英和尚住職又武別後持院再興ありて真言宗とありて又岡加井の乙訓寺の東にあり大師蜜法修りの時及びい一壺水ありて

今里 ありて
 日多しを遠の今里坂史々々多羽因面に畑なるびく 足明法親王
 明星町の今里の志くあり推古天皇離宮ありて所あり



栗生光明寺

報國山光明寺の粟生野にあり宗直浄土宗西山派の一本寺之奉尊國光
大師坐像あり自化あり法然上人四圍(左邊)のみ母儀の浦島河以て
依りあへん本尊あり世に禱の神祇といふ
阿弥陀堂の本尊の惠心僧都の化して江別堅田浄堂千體佛の中
尊あり熊谷蓮生法師法團を興せりとい所おとほり州彦依りてま
て安坐は法然上人の廟蓮生の塔の本堂のうしろの上にある推
阿弥陀堂の傍小ありて方丈の御鉢釋世佛を安坐はそれ
當寺の草創は法然上人の滅後十六年ありて叡山の衆徒念佛
宗の繁茂をうけ継承しついで上人の所他選擇集は破して
彈選擇集は并撰堅者定照房といふもの著し隆寛律師のり
に送る隆寛則其答小顯選擇集は述く汝ら僻案のありてざら
るる暗夜の礫のぬき書山徒大不憤く三塔小筋流し大亮
蜂起して圓基僧正ふ後し奉開版遂く隆寛版遠流ふり人又
上人の墳墓と破卻せんと評義まらくるるる僧徒勇まれば

聞て大不致は所墳依他所へうのて今と夜ふ入て人まら石
と堀出し其介上人所持の親像依りて奉奉米定坊のり
送る其親五年安貞二年正月ふりて上人の石棺より光明のや
しうを米定坊のやしう光のそとに依りて奉奉米定坊の南あり
粟生野にやしうの至り則は所に住る幸阿弥陀佛のそとふあり
て具然依りて不幸阿弥も不思議の靈告ありて手に合はまら上人
の侍弟を奉らるる棺と粟生野に依りて是依開きんれば上人の面貞
存日れめ一則當寺の山腹にゆめ茶毘を時小忽結して紫雲空
ふぬきひれ異香四方に薫る則舍利を拾りて廟堂を造立し浄土
一家の宗廟とす堂を度ひし所二松ありてまね依米雲松とすりて今
堂記あり已上當寺縁記の意とす
惣して當山の経書の地ありて山林の陰に宝閣を造り常行念佛
の聲をくば講堂あり万巻をひくそ真如の月と輝く秋葉園より
風浪ゆる黄金と布の祇陀園もいつて

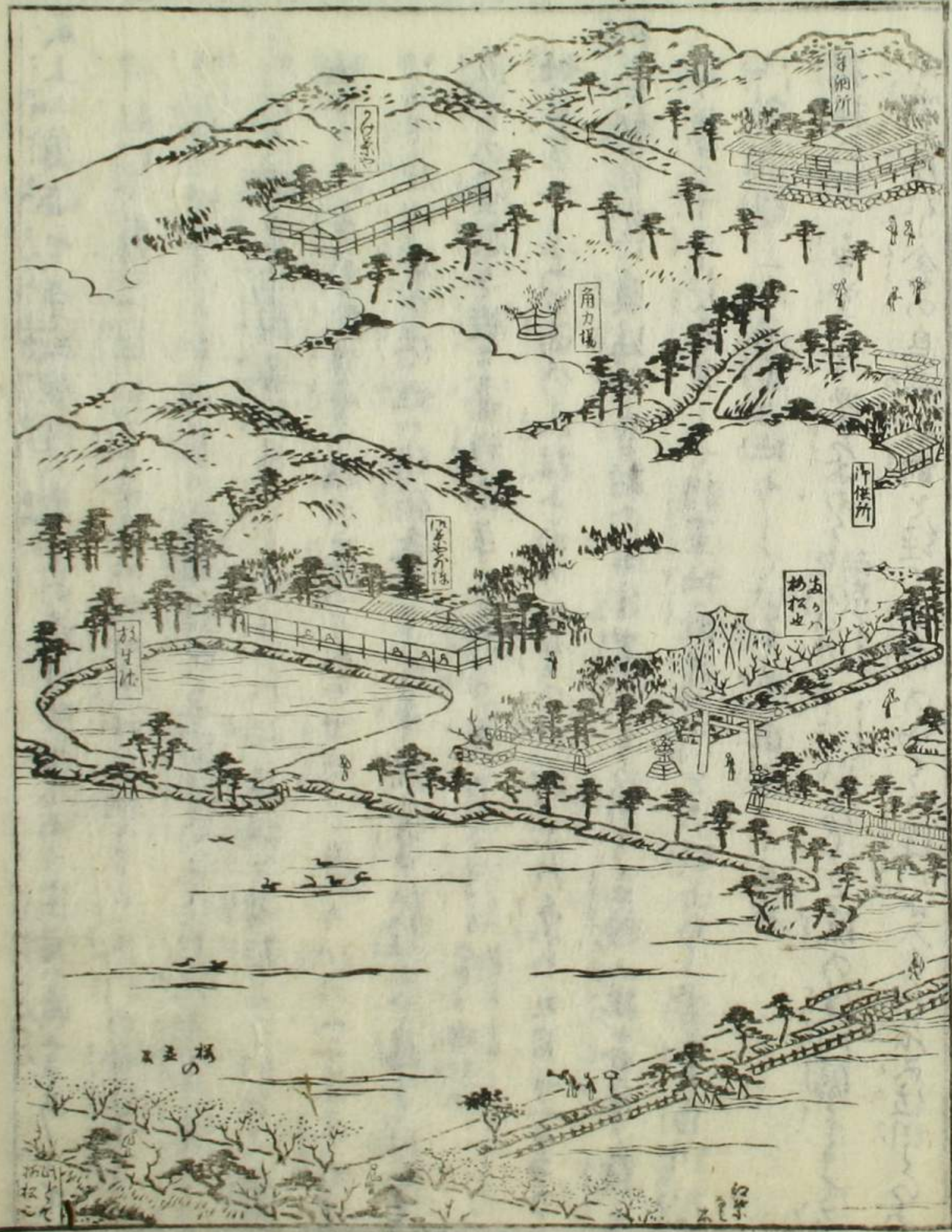
當寺の本堂は近代の建之始好地
類を後代造るの規矩とす



揚谷観音堂



奥海印寺寂照院





小倉明神

小倉山

五位門

四六十四

小倉のやしろの圓明寺の里住還より十余町西の山林あり本殿ハ

正位小倉大明神例祭を四月五日ありてけりけりけりけりけり

毎歳四月二日に猿樂あり 京六条某氏よりまゐる

圓明寺ハ小倉山の南ふあり本尊ハ薬師如来ありて聖徳太子乃

所化有り當寺ハいしへ堂塔魏々として九條殿下光明峯寺道

家公の艸創あり所子園明寺撰政實經公晩年ふ及んて父祖の遺

跡を承りてけり地ハ山莊と構て閑居ハありて遂にけり所ハ於て葬

あり所墳小倉のやしろの巽あり

歸海寺ハ下植野にあり宗音真言ありて本尊ハ千手觀音 定朝の

賜士ハ不動明王弘法大師の化地藏菩薩ハ傳教大師の化あり 當寺ハ

平家代御所あり 平家宗春撰丹波少將成常傳におかき

成就ゆへに寺あり 成就ゆへに寺あり

勝龍寺ハ城乃ハ神足の東ふあり

畠山右衛門佐義就らハ樂信長記ハ曰永徳十年九月廿九日成主統勝龍寺の城ニ據る

山崎
谷に観音



大山崎天王の社、素盞鳥の清子八王子を鎮座し、つ之鳥居の額、
 野道風れ、當社勸請の年代詳く、次神殿梁の銘曰養光二年再興と書け、今本坊あり天王山の城、文明二年山名是豊赤松一族上洛して、城と築く
 観音寺、天王山の東半、腋にあり、真言宗、つて佛殿の本尊、八観世菩薩
 之像、聖徳太子の仇之祖師堂、弘法大師、其像と安置、及本食、以空僧正
 中興して、今の如く再建あり、當時の客殿より、後八幡の風、氣眼、下り、遊
 寶寺、八観音寺の南、あり、補陀洛山寶積寺、つて真言宗、つて本尊、
 十一面観音の之像、つて聖武帝、行基、大士の之像、堂内の寶頭雷の像、行基の仇之像あり、
 聖武帝の清塔、之三重、塔、又、大日如来と安置、及當寺の什寶、に、お出れ、小龍あり、
 妙喜寺、八寶寺の麓、あり、禪宗、つて本尊、十一面観音、之千利休、
 け所、あり、つて二尊、なれ、園を、建、秀吉、公、ゆ、け、流、流、あり、七、茶、れ、流、あり、
 山崎の橋、八祖武帝、即位、二年、小足と造、中、頃、より、流、の、橋、を、け、七、絶、て、り、今、山
 舟、あり、つて、流、の、流、あり、つて、人、家、な、ら、ぬ、つて、今、れ、橋、本、れ、是、之、

離宮八幡宮（八幡宮）の傍に還の中より鳥井の親行成卿の寄神殿の
 八幡と崇奉する社壇の下に石清水涌出（石清水涌出）に
 若宮のやしろ武内臣の本社の傍に後より神降ふといふ
 当社に貞觀元年四月十五日行教和尚宇佐宮小指て八月廿一日歸洛
 し（一）の倚ふ時（二）に村老出く和尚對し去七月十五日夜は地神降ふ
 ぬ其理日輪の如く又橋樹の本陰より清水出て異香薫を行教
 されば天聽不達一勅と奉て清水依神降し神殿と造営し（三）あり
 離宮の名に當社鎮座の日ありあり弘仁帝の所將の時夜泊し（四）の倚の
 離宮とれかりは宮室を初法し（五）ありし（六）離宮八幡と稱す
 天は宮の社腰け石を筑築せしむる所は所は依ひかたて海下あり
 一 吾のこむ宿れ指とりのもむ所をたのむりみし（七）那（八）管贈大政家
 宗鑑法師の幽居の地天は宮の傍に（九）宗鑑足利義尚公の侍童ありて俗松志那公を
 関戸明神（一〇）山城棋津の園塚とす一は所は関所あり関戸院と号し今
 町の名とありて関戸町といふ谷の親より此町の南あり（一一）園塚檢金の像を
 山中にあり



